

シラバス

2026年度

作業療法学科

学校法人医療創生大学

千葉・柏リハビリテーション学院

シラバス (Syllabus) について

シラバスとは学習計画のことであり、個別講義の受講に関する情報（概要、到達目標、学習内容・方法、評価の方法）が全て盛り込まれている。

シラバスを利用する目的として、

- ①学生が講義の流れを理解し、円滑に授業を受けられる。
- ②教員は学生に対して円滑に授業を進行できる。

以上のために利用され、授業計画の進捗状況と、学生が目標を達成し、学習効果をあげているかを教員だけでなく学生の両者がその状況を総括できるものである。また、シラバスを介して学生と教員間の互いのコミュニケーションのツールとして活用できるものである。

学生はシラバスを通読し、常に携帯するように心がけてください。そして充実した学生生活を送るため、また効率良い学習のために大いに役立ててください。

I. 千葉・柏リハビリテーション学院の教育理念

葵会グループの「治す」と「防ぐ」を高いレベルで両立する進化した医療を提供することを踏まえ「健康でかけがえのないその人らしい人生を尊重する」ことを教育理念とした教育を実践する。「その人らしい人生」とは、その人の人格を尊重することのみならず、唯一無二のかけがえのない健康な人生そのものを尊重することである。

葵会グループの理念に基づいた教育を実践するとは、理学療法、作業療法に必要な知識・技術・態度を得し、他者に対する暖かいまなざしを持ち「ケアリング」と「コーチング」を追求する高い倫理観を持った専門医療技術者を育てることである。さらに、理学療法士・作業療法士という職業を通して、学修者の「アイデンティティ」形成が深められ、それが職業観に結びつくような教育を実践することである。

II. 教育目的・教育目標

教育目的

科学的根拠に基づき、主体的に考え、実践できる専門医療技術者の育成のために、理学療法・作業療法に関する理論および技術を教授する。そして、専門医療技術者としての誇りと自覚を持ち、葵会グループ・地域社会に広く貢献できる専門技術者を育成することを目的とする。

教育目標

- 1 生命の尊厳を基盤とし、理学療法・作業療法の対象を身体的・精神的・社会的な側面を持つ統合体としての人間を幅広く理解する能力を養う。
- 2 対象の能力障害を科学的根拠に基づいて判断し 理学療法・作業療法を実践できる能力を養う。
- 3 自己洞察ができ、他者に対し、深い愛情とケアリングができる人間関係を営む能力を養う。
- 4 進展する医療や社会のニーズに対応した臨床的観察力・分析力を活用し、治療計画立案能力を養う。
- 5 保健・医療・福祉チームの一員として、理学療法・作業療法の役割と責任を果たし、他職種と協同・調整する能力を養う。
- 6 専門医療技術者を目指し、倫理観を培うとともに自己教育力を養う。

Ⅲ. 学科別教育目的・教育目標 （作業療法学科）

人の作業的公正を促す作業療法士として、対象者を中心とし、科学的根拠にもとづく作業療法を実践することができる。主体的に自己涵養を行い、地域における作業療法の役割を遂行できる人材を育成する。

このために教職員は最新の知識と技術について学生に伝達するとともに柔軟な教育方法のもとに、日本作業療法協会の定める卒前教育における到達目標「自ら学ぶ力を育て、作業療法の基本的な知識と技能を修得する」ことに加え、全人間的な教育を行うことにより地域社会に貢献することのできる作業療法士を育成することとする。

- 1 基本的知識の習得
国家試験に必要な医学的な基礎知識、関連領域の基礎知識を習得する。
- 2 人間を総合的に把握できる。
障害の有無にかかわらず、人の作業的側面及び全人間的に把握できるようにする。
- 3 作業療法実践に関して科学的根拠に基づく判断を行い、実践できる。
科学的根拠について探求し、対象者に合わせたリーズニングを実践できる。
- 4 作業療法におけるtherapeutic use of selfのために、自己を洞察し、ケアリングできる。
自己の洞察を行い、therapeutic use of selfに基づくケアリングができるよう自己と他者について学ぶ。
- 5 作業療法実践に必要な臨床的観察、分析を社会のニーズに合わせて実践できる。
臨床において必要な観察力を身に付け、対象者の作業状態を分析する能力を養う
- 6 多職種協働のためのチーム運営、実践能力を養う。
多職種協働のため、多職種について理解するとともに作業療法について説明できる。
- 7 専門医療技術者を目指し、倫理観を培うとともに自己教育力を養う。
臨床における自己教育実践のために必要な学習方法について身に付ける。

作業療法学科 教育課程表

区分	教育内容	規定 単位	科目名	授業形態	1年次			2年次			3年次			合計	
					時間数	コマ数	履修 単位数	時間数	コマ数	履修 単位数	時間数	コマ数	履修 単位数	時間数	履修 単位数
基礎 分野	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	14	人間関係とコミュニケーション	講義	30	15	2							30	2
			自然科学概論	講義	30	15	2							30	2
			医学情報処理	講義	30	15	2							30	2
			保健体育	講義	30	15	2							30	2
			医学英語	講義	30	15	2							30	2
			心理学	講義	30	15	2							30	2
			文章表現法	講義	30	15	2							30	2
			小計		210		14							210	14
専門 基礎 分野	人体の構造と機能 及び 心身の発達	12	解剖学	講義	120	60	4							120	4
			生理学	講義	120	60	4							120	4
			人間発達	講義	15	8	1							15	1
			運動学Ⅰ	講義・演習	30	15	1							30	1
			運動学Ⅱ	講義・演習				60	30	2				60	2
			運動学演習	演習				45	23	1				45	1
			小計		285		10	105		3				390	13
	疾病と障害の成り立ち 及び 回復過程の促進	14	病理学	講義・演習	30	15	1							30	1
			臨床心理学	講義	15	8	1							15	1
			内科学	講義・演習	30	15	1							30	1
			整形外科	講義・演習	30	15	1							30	1
			神経内科学	講義・演習	30	15	1							30	1
			臨床医学と画像診断	講義・演習	30	15	1							30	1
			精神医学	講義・演習	30	15	1							30	1
			小児科学	講義・演習	30	15	1							30	1
			老年医学	講義・演習				30	15	1				30	1
			予防医学と公衆衛生	講義	15	8	1							15	1
			リハビリテーション医学	講義・演習				30	15	1				30	1
			人体と薬理	講義	15	8	1							15	1
			救命救急の基礎	講義	15	8	1							15	1
			人体と栄養	講義	15	8	1							15	1
			小計		285		12	60		2				345	14
	保健医療福祉と リハビリテーションの理念	4	職業関連リハビリテーション学	講義	15	8	1							15	1
			リハビリテーション概論	講義	30	15	1							30	1
			地域マネジメント論	講義				15	8	1				15	1
			多職種連携演習	演習	45	23	1							45	1
			小計		90		3	15		1				105	4

作業療法学科 教育課程表

区分	教育内容	規定 単位	科目名	授業形態	1年次			2年次			3年次			合計	
					時間数	コマ数	履修 単位数	時間数	コマ数	履修 単位数	時間数	コマ数	履修 単位数	時間数	履修 単位数
専門分野	基礎作業療法学	5	作業療法概論	講義・演習	30	15	1							30	1
			作業療法理論	講義				15	8	1				15	1
			作業療法研究法	講義・演習				30	15	1				30	1
			作業療法研究法演習	演習							45	23	1	45	1
			基礎作業分析学	講義・演習	30	15	1							30	1
			基礎作業分析学演習	演習	45	23	1							45	1
			小計		105		3	45		2	45		1	195	6
	作業療法管理学	2	作業療法運営管理	講義							30	15	2	30	2
			小計							30		2	30	2	
	作業療法評価学	5	身体機能障害作業療法評価学Ⅰ	講義・演習				30	15	1				30	1
			身体機能障害作業療法評価学Ⅱ	講義・演習				30	15	1				30	1
			精神機能障害作業療法評価学Ⅰ	講義・演習				30	15	1				30	1
			精神機能障害作業療法評価学Ⅱ	講義・演習				30	15	1				30	1
			身体機能障害作業療法評価学演習	演習				45	23	1				45	1
			精神機能障害作業療法評価学演習	演習				45	23	1				45	1
			小計					210		6				210	6
	作業療法治療学	19	義肢装具学	講義				30	15	2				30	2
			日常生活動作援助論	講義				30	15	2				30	2
			日常生活動作援助論演習	演習				45	23	1				45	1
			中枢神経疾患作業療法治療学Ⅰ	講義・演習				30	15	1				30	1
			中枢神経疾患作業療法治療学Ⅱ	講義・演習				30	15	1				30	1
			身体機能障害作業療法治療学演習	演習				45	23	1				45	1
			運動器疾患作業療法治療学	講義				30	15	2				30	2
			内部疾患作業療法治療学	講義				30	15	2				30	2
			精神疾患作業療法治療学Ⅰ	講義・演習				30	15	1				30	1
			精神疾患作業療法治療学Ⅱ	講義・演習				30	15	1				30	1
			精神疾患作業療法治療学演習	演習				45	23	1				45	1
			発達障害作業療法治療学	講義				30	15	2				30	2
			老年期作業療法治療学	講義・演習				30	15	1				30	1
			老年期作業療法治療学演習	演習				45	23	1				45	1
			小計					480		19				480	19
	地域作業療法学	4	生活環境論	講義				30	15	2				30	2
			地域作業療法学	講義				30	15	2				30	2
			地域作業療法学演習	演習				45	23	1				45	1
			小計					105		5				105	5
	臨床実習	22	見学実習Ⅰ	実習	45		1							45	1
			見学実習Ⅱ	実習	45		1							45	1
			評価実習Ⅰ	実習				135		3				135	3
			評価実習Ⅱ	実習				135		3				135	3
			総合臨床実習Ⅰ	実習							360		8	360	8
			総合臨床実習Ⅱ	実習							360		8	360	8
			地域実践実習	実習							45		1	45	1
			小計		90		2	270		6	765		17	1125	25
選択必修専門分野	作業療法治療学特論	3	集団の作業療法特論	演習	45	23	1							45	1
			遊び・余暇活動特論	演習	45	23	1							45	1
			ハンドセラピー特論	演習				45	23	1				45	1
			福祉機器特論	演習				45	23	1				45	1
			高次脳機能障害特論	演習				45	23	1				45	1
			臨床作業療法特論	演習				45	23	1				45	1
			徒手療法特論	演習							45	23	1	45	1
			保健統計分析学特論	演習							45	23	1	45	1
			小計		45		1	45		1	45		1	135	3
合計		104	合計		1110		45	1335		45	885		21	3330	111

I. 基礎分野 i) 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	I 基礎分野
II. 専門基礎分野 i) 人体の構造と機能及び心身の発達 ii) 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 iii) 保健医療福祉とリハビリテーションの理念 III. 専門分野 i) 基礎作業療法学 ii) 作業療法管理学 iii) 作業療法評価学 iv) 作業療法治療学 v) 地域作業療法学 vi) 臨床実習 IV. 選択必修専門分野 i) 作業療法治療学特論	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解
	14単位

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
人間関係とコミュニケーション		講義	前期	OT1年	2単位	30時間	小島正義
教 育 目 標	【一般目標】 近年の医学教育では言葉や対話を技術という観点から捉え、コミュニケーションスキルは医療面接の核心部分であり、その教育が必要であるという共通認識が得られている。また、出会う対象者の状況を理解し迎える、信頼を得るツールともいえる。この講義を通して、様々なコミュニケーションスキルを学び考え、体験的なワーク、グループワークを通して、自己理解を深め、現場で活用できるコミュニケーションスキルを身に付ける。「わかる」ではなく、「できる」ようになることを目標とする。						
	【行動目標】 1. コミュニケーションスキルの必要性を理解する 2. 自身の特性を理解し、適切なコミュニケーションスキルを獲得し実行できる・他者の話を傾聴、共感、理解できる・他者の話を認めたうえで、自身の考えを伝えられる						
成績評価方法	授業中の実習課題にて評価する。						
回	内容						担当者
1	オリエンテーション、エゴグラム分析						小島正義
2	聴く力チェック、聴く方を身につけるための実習①（上から目線）						
3	聴き方を身につけるための実習②（うなずきと相づち、笑顔）						
4	バックトラッキング（オウム返しから要約の技法まで）						
5	伝え上手チェック、伝達トレーニング						
6	ジェスチャー・コミュニケーション						
7	喜ばれる言葉と嫌われる言葉						
8	敬語テスト						
9	介護現場での暴言について						
10	高齢者に「キレない」技術（アンガーマネジメント）						
11	共感する力チェック、共感の技法						
12	なかなか聞き取れない構音障害・脳性麻痺の言葉、ア行トーク						
13	サイレント・トーク						
14	質問技法（コーチング）						
15	まとめ						
履修者へのコメント ※67.5時間以上の自己学習を要する。 コミュニケーションは、人と関わるうえで必須のスキルです。作業療法士は、特に対象者に寄り添い、理解し、心のケアも含め関わっていく職業です。この授業で、知識だけでなく、楽しみながら技術を身に付けて頂きたいと考えています。知識や治療技術があるセラピストもコミュニケーションスキルが乏しいと治療結果が出づらくなります。一緒に安心感を与えられる人になりましょう！！ ※授業の理解度・進行状況により、授業内容を変更する場合がありますため、注意すること。							
テキスト							
参考書 随時、必要に応じて紹介する。							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
自然科学概論		講義	前期	OT1年	2単位	30時間	伊藤栄司
教 育 目 標	【一般目標】 科学的知識の基礎となる自然科学を概要を理解できる。 人体の運動に起こる物理現象についてはリハビリテーションの基礎となるため、その仕組み、関係を重点的に理解できる。 【行動目標】 1. 自然科学に必要な単位を表記できる。2. 運動・仕事・力の関係について説明できる。 3. 物理現象について説明できる。 4. 物理現象を算出する計算式を適切に選択できる。 5. 物理現象を算出する計算から適切な答えを導き出せる。						
成 績 評 価 方 法	定期試験及び小テストで総合的に評価する。						
回	内 容						担当者
1	講義内容説明, 自然科学基礎知識（1）						伊藤栄司
2	自然科学基礎知識（2）						
3	バイオメカニクス「運動（1）速度・加速度・法則」						
4	バイオメカニクス「運動（2）仕事・運動量」						
5	バイオメカニクス「運動（3）総合」						
6	バイオメカニクス「力（1）種類・つり合い」						
7	バイオメカニクス「力（2）モーメント」						
8	バイオメカニクス「力（3）総合」						
9	バイオメカニクス「てこ（1）基本」						
10	バイオメカニクス「てこ（2）滑車・輪軸」						
11	バイオメカニクス「てこ（3）総合」						
12	バイオメカニクス「仕事（1）基本・エネルギー」						
13	バイオメカニクス「仕事（2）エネルギーの保存」						
14	バイオメカニクス「仕事（3）総合」						
15	バイオメカニクス「総合」						
履修者へのコメント ※67.5時間以上の自己学習を要する。 講義内で演習を毎回実施します。分からないことは授業前、授業後等に必ず対応します。 気持ちで負けず、「諦めないこと、分からないままにしないこと」を意識してください。							
テキスト プリントの配布							
参考書							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
医学情報処理		講義	前期	OT1年	2単位	30時間	熊谷淳平
教 育 目 標	【一般目標】 高度情報化社会において，医療分野における情報管理，情報処理の重要性を理解できる。						
	【行動目標】 1. 基本的なPC, ICTツールを使用できる。 2. 情報リテラシーの重要性を理解し，説明できる。 3. 医療における個人情報管理の重要性を理解し，説明できる。 4. 医療におけるWORD，Excel，PowerPointを正しく使用できる。 5. リハビリテーションにおける情報の管理とカルテ記載の方法を実践できる。						
成 績 評 価 方 法	課題にて判定する。						
回	内 容						担当者
1	オリエンテーション（医療職にPCスキルがなぜ必要なのか）						熊谷淳平
2	学院におけるICTツールの取り扱いについて（C-learning、Microsoft365使用方法）						
3	ネットリテラシーについて①（SNSと医療職）						
4	ネットリテラシーについて②（個人情報と医療倫理）						
5	PCの基本操作						
6	タイピングと効率操作						
7	医療文書作成（Word）						
8	レポート作成（Word）						
9	データ入力（EXCEL）						
10	データの可視化（EXCEL）						
11	医療情報検索（探し方、信頼性、AIとの向き合い方）						
12	プレゼンテーション①（PowerPoint）						
13	プレゼンテーション②（PowerPoint）						
14	プレゼンテーションのグループ発表						
15	まとめ（医療職における情報との向き合い方）						
履修者へのコメント ※67.5時間以上の自己学習を要する。 毎回PCを充電した状態で持参すること							
テキスト 必要に応じて資料を配布する							
参考書 必要に応じて資料を配布する							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
保健体育		講義	前期	OT1年	2単位	30時間	早瀬知穂
教 育 目 標	【一般目標】 1. 健康的な生活を営むうえで必要な知識を学び、自身の実生活に生かせるようになること。 2. 体を動かすことを通じて、運動に親しむとともに、仲間とコミュニケーションを取れるようになること。 【行動目標】 主体的に授業に取り組むこと。						
成績 評価 方法	第3, 5, 7, 9, 11回の講義後に実施する計5回の小レポートおよび最終レポートによって評価する。 1回の小レポートの点数は10点満点とし、合計50点を満点とする。最終レポートは50点満点で評価する。これらの合計点は100点とし、60点以上で合格とする。						
回	内 容						担当者
1	オリエンテーション						早瀬知穂
2	【講義】日本の運動と健康						
3	【講義】生涯にわたる運動と健康①（子ども・青年期）						
4	【実技】体力測定①						
5	【講義】生涯にわたる運動と健康②（勤労者・高齢者）						
6	【実技】屋内運動						
7	【講義】健康づくりのための運動科学						
8	【実技】屋内運動						
9	【講義】運動習慣の心理学						
10	【実技】屋内運動						
11	【講義】健康と環境						
12	【実技】屋内運動						
13	【講義】多様なスポーツ文化						
14	【実技】屋内運動						
15	【実技】体力測定②						
履修者へのコメント ※67.5時間以上の自己学習を要する。 本授業は講堂で講義と実技を行います。屋内運動は激しい運動は行わないため、必ずしも運動着や運動に適したシューズは必要ではないですが、持参することを推奨します。							
テキスト なし							
参考書 なし							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
医学英語		講義	後期	OT1年	2単位	30時間	伊藤栄司
教 育 目 標	【一般目標】 英語への理解を深め、幅広い知識を会得する。 【行動目標】 1. 苦手意識の払拭を心掛ける。 2. 基礎～実用、医学的なものまで、自らが使える知識を得る。 3. 前向きな姿勢で取り組む意識を持つ。						
成 績 評 価 方 法	定期試験及び小テストで到達度を評価する。						
回	内 容						担当者
1	Guidance＋α						伊藤栄司
2	Beginner_1：「There’s no time, so decide now!!」 <the goal>						
3	Beginner_2：「You think too slowly!!」 <short sentence(s.s):1>						
4	Beginner_3：「Anywhere Door!」 <noun>						
5	Beginner_4：「If the little cuckoo doesn’t sing…」 <s.s:2>						
6	Intermediate_1：「Welcome to… “The True Man’s World”…」 <template>						
7	Intermediate_2：「How many breads have you eaten in your life?」 <conversation>						
8	Intermediate_3：「You can’t take our king this early in the game.」 <translation>						
9	Intermediate_4：「It’s become a habit for me,moving silently.」 <s.s:3>						
10	Intermediate_5：「Check it out!」 <review:1>						
11	Comprehensive_1：「The name is called “M.C.G”.」 <english composition>						
12	Comprehensive_2：「S S S, V t L…」 <reading comprehension>						
13	Comprehensive_3：「I never go back on my word!」 <review:2>						
14	Comprehensive_4：「Let’s meet in the finals!!」 <mock test>						
15	Comprehensive_5： [Golede-Wind] <last hurdle>						
履修者へのコメント ※67.5時間以上の自己学習を要する。 英語が苦手、嫌いだという人が、少しでも楽しいと思えるような講義、英語が得意、好きだという人が、より前向きに取り組めるような講義、そんな講義が出来ればと思っています。 Let’s have fun together!							
テキスト 講義用プリントの配布							
参考書 「辞書（英和&和英）」持参を推奨。もしくは「辞書アプリ」をダウンロードしておくこと。							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
心理学		講義	前期	OT1年	2単位	30時間	松平友見
教 育 目 標	【一般目標】 医療従事者として必要な、人間の心理的機能や特性に関する基本的知識を習得する。 【行動目標】 1. 認知機能の種類と特徴を理解し、説明することができる。 2. 認知機能、パーソナリティの測定方法を理解し、説明することができる。 3. 心理的・精神的な障害の概略を理解し、説明することができる。						
成 績 評 価 方 法	定期試験により評価する。						
回	内 容						担当者
1	心理学概論 ― 認知心理学を中心に ―						松平友見
2	感覚						
3	知覚						
4	記憶①						
5	記憶②						
6	知能①						
7	知能②						
8	学習						
9	パーソナリティ①						
10	パーソナリティ②						
11	心理検査実習						
12	高次脳機能障害						
13	発達障害						
14	パーソナリティ障害						
15	障害受容						
履修者へのコメント ※67.5時間以上の自己学習を要する。 ・人間の認知機能（見る、聞く、考える、記憶するなど）の仕組みとともに、それが障害された場合にはどのような症状が現れるのかをわかりやすく学びます。 ・第11回授業では、心理検査を使用した自己分析を行います。							
テキスト 中川 明仁ほか（編著）. (2024). 心理学・臨床心理学（Crosslink basic リハビリテーションテキスト）. メジカルビュー社.							
参考書 はじめて出会う心理学 第3版 長谷川寿一ほか著（有斐閣アルマ, 2020）							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
文章表現法		講義	後期	OT1年	2単位	30時間	伊藤栄司
教 育 目 標	【一般目標】 1. 学生生活時の実習やレポートにおける基本的な文章の仕組みを知り、きちんと理解する。 2. 様々な人、場面における適切なコミュニケーションを、自然にとれる力を養う。 3. 現代に不足しがちな、記述する能力を養う。						
	【行動目標】 1. 実習時のレポートや礼状を正しく書ける。 2. 実習時にきちんとしたコミュニケーションがとれる。 3. 正しい情報を調べられ、正しく理解することができる。						
成績評価方法	小テスト、課題などにより総合的に評価する。						
回	内 容						担当者
1	ガイダンス＋α						伊藤栄司
2	文章の読解・理解（１）						
3	文章の読解・理解（２）＋α						
4	文章の構造（１）						
5	文章の構造（２）＋α						
6	敬語の理解（１）						
7	敬語の理解（２）＋α						
8	礼状の書き方（１）						
9	礼状の書き方（２）＋α						
10	文章表現法 第１回からの確認						
11	レポートの書き方（１）						
12	レポートの書き方（２）＋α						
13	資料の検索・判別（１）						
14	資料の検索・判別（２）＋α						
15	文章表現法 総合＋α						
履修者へのコメント ※67.5時間以上の自己学習を要する。 「記述力」を高めるには、正確な知識に加え、たくさん書くことが大切です。可能な限り、講義内で作文やレポートを実施し、添削をします。 ※PCでの文章作成を複数回実施します。							
テキスト プリントの配布							
参考書							

I. 基礎分野 i) 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	II 専門基礎分野
II. 専門基礎分野 i) 人体の構造と機能及び心身の発達 ii) 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 iii) 保健医療福祉とリハビリテーションの理念 III. 専門分野 i) 基礎作業療法学 ii) 作業療法管理学 iii) 作業療法評価学 iv) 作業療法治療学 v) 地域作業療法学 vi) 臨床実習 IV. 選択必修専門分野 i) 作業療法治療学特論	人体の構造と機能及び心身の発達
	12単位

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
解剖学		講義	通年 (前期)	OT1年	4単位	120時間	瀧本章平
教 育 目 標	【一般目標】 医療従事者になるにあたって必要な人体の「構造」について学ぶ。同時に作業療法士に必要な骨・筋を中心として形態的特徴を習得することを目標とする。						
	【行動目標】 1. 人体の基本構造について理解できる。 2. 骨の解剖学的名称を述べることができる。 3. 筋の解剖学的名称を述べることができる。 4. 筋の収縮による作用および起始・停止を説明できる。						
成績 評価 方法	定期試験や提出物等で総合的に判断する。						
回	内 容						担当者
1	解剖学総論						瀧本章平
2							
3	細胞と組織						
4							
5	骨の基本構造						
6							
7	筋の基本構造						
8							
9	骨学上肢						
10							
11	筋学上肢						
12							
13	上肢の関節						
14							
15	骨学下肢						
16							
17	筋学下肢						
18							
19	下肢の関節						
20							
21	骨学体幹						
22							
23	筋学体幹						
24							
25	骨学頭蓋						
26							
27	筋学頭頸部						
28							
29	頭蓋・脊柱の関節						
30							
履修者へのコメント ※90時間以上の自己学習を要する。 解剖学は医学の基礎となる科目です。解剖学を理解することは医療従事者になるにあたって非常に重要なことであり、他の科目にも関連していきます。多くの名称を覚え、理解しなくてはならないので教科書を中心にスケッチなどもしてより理解を深めていきましょう。							
テキスト ・標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第6版 (医学書院) ・解剖学を学ぶための必須演習 全身骨学 学習サイドノート 第2版 (わかば出版) ・プロメテウス解剖学 コア アトラス 第4版 (医学書院)							
参考書 ・標準解剖学 第1版 (医学書院) ・解剖学講義 改訂3版 (南山堂)							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員	
解剖学		講義	通年 (後期)	0T1年	4単位	120時間	瀧本章平	
教 育 目 標	【一般目標】 医療従事者になるにあたって必要な人体の「構造」について学ぶ。同時に作業療法士に必要な神経・感覚器・内臓を中心として形態的特徴を習得することを目標とする。							
	【行動目標】 1. 中枢ならびに末梢神経に関する基本的知識を習得するとともに神経系と筋の相互関係を理解し、説明することができる。 2. 体腔の区分と各臓器の配置を機能と関連づけて説明することができる。							
成 績 評 価 方 法	定期試験や提出物等で総合的に判断する。							
回	内 容						担当者	
31	神経細胞と組織の分類						瀧本章平	
32								
33	中枢神経（大脳）							
34								
35	中枢神経（大脳基底核）							
36								
37	中枢神経（大脳辺縁系/間脳）							
38								
39	中枢神経（脳幹）							
40								
41	中枢神経（脊髄）							
42								
43	末梢神経（脳神経）							
44								
45	末梢神経（頸神経叢/腕神経叢）							
46								
47	末梢神経（胸神経・腰神経叢）							
48								
49	末梢神経（仙骨神経叢/尾骨神経叢）							
50								
51	末梢神経(自律神経)							
52								
53	内臓学（循環器/血管走行）							
54								
55	内臓学（呼吸器/血管走行）							
56								
57	内臓学（消化器/血管走行）							
58								
59	内臓学（泌尿器/血管走行）							
60								
履修者へのコメント ※90時間以上の自己学習を要する。 解剖学は医学の基礎となる科目です。解剖学を理解することは医療従事者になるにあたって非常に重要なことであり、他の科目にも関連していきます。多くの名称を覚え、理解しなくてはならないので教科書を中心にスケッチなどもしてより理解を深めていきましょう。								
テキスト ・標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第6版 （医学書院） ・解剖学を学ぶための必須演習 全身骨学 学習サイドノート 第2版 （わかば出版） ・プロメテウス解剖学 コア アトラス 第4版（医学書院）								
参考書 ・標準解剖学 第1版（医学書院） ・解剖学講義 改訂3版（南山堂）								

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
生理学		講義	通年 (前期)	0T1年	4単位	120時間	瀧本章平
教 育 目 標	【一般目標】 医療従事者になるにあたって必要な人体の「機能」について学ぶ。同時に作業療法士に必要な生理学的作用を中心として機能的特徴を習得することを目標とする。 【行動目標】 1. 人体の機能について説明することができる。 2. 血液の働きについて学び、体液と血液の違いや生体にもたらす機能を説明することができる。 3. 内臓機能（循環器・呼吸器）について神経系と関連づけて説明することができる。						
成績評価方法	定期試験や提出物等で総合的に判断する。						
回	内 容						担当者
1	生理学とは						瀧本章平
2							
3	細胞の機能						
4							
5	赤血球						
6							
7	血小板						
8							
9	血液凝固機構						
10							
11	白血球						
12							
13	生体防御機構						
14							
15	体液と酸塩基平衡						
16							
17	骨の生理						
18							
19	筋の生理 興奮収縮連関						
20							
21	脊髄反射						
22							
23	循環器系						
24							
25	血圧						
26							
27	呼吸器系						
28							
29	脳波と睡眠						
30							
履修者へのコメント ※90時間以上の自己学習を要する。 生理学は医学の基礎となる科目です。生理学を理解することは医療従事者になるにあたって非常に重要なことであり、他の科目にも関連してきます。覚えることはもちろんですが、「理解する」ことが重要になってきます。わからないことは曖昧にせず、すぐに質問してください。							
テキスト 生理学テキスト 第9版（文光堂）							
参考書 ・標準生理学 第10版（医学書院） ・標準理学療法学・作業療法学 生理学 第6版（医学書院）							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
生理学		講義	通年 (後期)	0T1年	4単位	120時間	瀧本章平
教 育 目 標	【一般目標】 医療従事者になるにあたって必要な人体の「機能」について学ぶ。同時に作業療法士に必要な生理学的作用を中心として機能的特徴を習得することを目標とする。						
	【行動目標】 1. 各内臓機能について学び、多方面へ関連づけて説明することができる。 2. 消化器系の酵素や吸収方法について説明することができる。 3. 内分泌系の作用のみならず過剰症や低下症について説明することができる。 4. 神経の伝導と化学伝達物質について説明することができる。						
成 績 評 価 方 法	定期試験や提出物等で総合的に判断する。						
回	内 容						担当者
31	消化器系（咀嚼と嚥下）						瀧本章平
32							
33	消化器系（分解と吸収）						
34							
35	消化器系（肝臓と胆嚢）						
36							
37	代謝						
38							
39	泌尿器系						
40							
41	内分泌系（視床下部 - 下垂体）						
42							
43	内分泌系（甲状腺）						
44							
45	内分泌系（腎臓と副腎）						
46							
47	内分泌系（生殖器系）						
48							
49	神経伝導と伝達						
50							
51	体性感覚						
52							
53	内臓感覚						
54							
55	特殊感覚						
56							
57	特殊感覚						
58							
59	生殖器系						
60							
履修者へのコメント ※90時間以上の自己学習を要する。 生理学は医学の基礎となる科目です。生理学を理解することは医療従事者になるにあたって非常に重要なことであり、他の科目にも関連してきます。覚えることはもちろんですが、「理解する」ことが重要になってきます。わからないことは曖昧にせず、すぐに質問してください。							
テキスト 生理学テキスト 第9版（文光堂）							
参考書 ・ 標準生理学 第10版（医学書院） ・ 標準理学療法学・作業療法学 生理学 第6版（医学書院）							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
人間発達		講義	後期	OT1年	1単位	15時間	松平友見
教 育 目 標	【一般目標】 人間のライフサイクル、各発達段階における課題や心理社会的特徴に関する基本的知識を習得する。 【行動目標】 1. 人間のライフサイクルを生涯発達の観点から理解し、説明することができる。 2. こどもの身体的、心理的、社会的発達の特徴を理解し、説明することができる。 3. 成人の身体的、心理的、社会的発達の特徴を理解し、説明することができる。						
成 績 評 価 方 法	定期試験により評価する。						
回	内 容						担当者
1	人間発達学概論 ーライフサイクルと発達課題を中心にー						松平友見
2	身体・運動機能の発達						
3	認知機能の発達						
4	言語の発達						
5	情動・アタッチメントの発達						
6	あそびと生活能力・社会性の発達						
7	アイデンティティの形成と再編						
8	発達評価						
履修者へのコメント ※33時間以上の自己学習を要する。 発達の遅れや偏りを理解するためには、平均的な発達がどのようなものかを知っておく必要があります。心理学(前期)で学んだ知識をもとに、人間の一生をとおした定型発達について学びます。							
テキスト 浅野大喜（編著）. (2021). 人間発達学 (Crosslink basic リハビリテーションテキスト). メジカルビュー社.							
参考書 はじめて出会う心理学第3版 長谷川寿一ほか著（有斐閣アルマ, 2020）							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
運動学Ⅰ		講義・演習	後期	OT1年	1単位	30時間	南田昌子
教 育 目 標	【一般目標】 1. 運動学の基本的な用語を理解し、適切に使用することができる。 2. 正常な人間の運動を理解し、基礎的知識を身につける。 【行動目標】 1. 運動学の基本的な用語を適切に使用できる。 2. 運動学における力学の基礎を理解できる。 3. 運動器系の解剖・生理学などの基本的項目を理解できる。 4. 各関節ごとの構造・機能・運動を筋、関節・神経を使用して説明できる。						
成 績 評 価 方 法	定期的に行う小テストおよび定期試験にて判定していく。						
回	内 容						担 当 者
1	オリエンテーション／運動学とは／運動学的に動作を捉える視点						南田昌子
2	肩甲帯の構造と運動／肩甲帯の筋・靱帯・神経支配						
3	肩関節の構造と運動／肩関節の筋・靱帯・神経支配／肩甲上腕リズム						
4	肘関節の構造と運動／前腕の構造と運動／肘・前腕の筋・靱帯・神経支配						
5	上肢帯の構造と運動まとめ						
6	手関節・手指の構造と運動／手関節の筋（手外在筋）・靱帯・神経支配						
7	手指の構造と運動／手指の筋（手内在筋）・靱帯・神経支配						
8	骨盤帯・股関節の構造と運動／骨盤帯・股関節の筋・靱帯・神経支配						
9	膝関節の構造と運動／膝関節の筋・靱帯・神経支配						
10	足関節・足趾の構造と運動／足関節の筋・靱帯・神経支配						
11	頭頸部の構造と運動／頭頸部の筋・靱帯・神経支配／舌骨筋群						
12	頸椎・胸椎・腰椎の構造と運動／頸椎・胸椎・腰椎の筋・靱帯・神経支配						
13	呼吸に関わる構造と運動／呼吸に関わる筋・神経支配						
14	咀嚼に関わる構造と運動／咀嚼に関わる筋・神経支配						
15	表情に関わる構造と運動／表情に関わる筋・神経支配						
履修者へのコメント ※22.5時間以上の自己学習を要する。 授業の理解度・進行状況により、授業内容を一部変更する場合があるため、変更がある場合は、予め提示します。							
テキスト ・基礎運動学 第7版（医歯薬出版） ・標準理学療法学・作業療法学 解剖学 第6版（医学書院） ・解剖学を学ぶための必須演習 全身骨学 学習サイドノート 第2版（わかば出版）							
参考書 必要に応じて、紹介していく。							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
運動学Ⅱ		講義・演習	前期	OT2年	2単位	60時間	桜井淳
教 育 目 標	【一般目標】 1. 運動に関する身体機能との関係について理解できる。 2. バランス制御の仕組み、歩行についてその要素や相違点について理解できる。 3. 運動発達、運動学習についてその要素や特徴を理解できる。						
	【行動目標】 1. 運動に関する身体機能との関係について説明できる。 2. バランス制御の仕組み、歩行についてその要素や相違点について説明できる。 3. 運動発達、運動学習についてその要素や特徴を説明できる。						
成 績 評 価 方 法	①定期試験60点以上 ②授業内確認テスト ③レポート課題提出 ①～③により総合的に評価する。						
回	内 容						担当者
1	運動器の構造と機能①						桜井淳
2							
3	運動器の構造と機能②						
4							
5	随意運動・反射						
6							
7	呼吸						
8							
9	血液と循環						
10							
11	体温調整，腎臓と酸塩基平衡						
12							
13	運動に対する呼吸循環応答						
14							
15	栄養とエネルギー代謝						
16							
17	バランス制御①						
18							
19	バランス制御②						
20							
21	歩行①						
22							
23	歩行②						
24							
25	歩行③						
26							
27	運動発達						
28							
29	運動学習						
30							
履修者へのコメント ※45時間以上の自己学習を要する。 ・主体は講義形式である。 ・授業の理解度・進行状況により、授業内容の変更する場合もあるため、注意すること。							
テキスト 基礎運動学 第7版（医歯薬出版株式会社）							
参考書 特になし							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
運動学演習		演習	前期	OT2年	1単位	45時間	牧内亮
教 育 目 標	【一般目標】 正常な人間の運動と動作を運動学的に分析することができる。						
	【行動目標】 1. 主な体表指標, 表層で触れることができる筋を触知できる。 2. 正常な人間の姿勢, 基本動作, 歩行を記録できる。 3. 関節モーメント, 床反力を理解できる。 4. クラインフォーゲルバッハの概念を理解できる。 5. 動作を相に分け、関節運動や筋活動を記述できる。						
成績 評価 方法	実技テストとレポート課題から総合的に勘案し評価する。						
回	内 容						担当者
1	オリエンテーション／運動学、特に運動方向の復習						牧内亮
2	骨のランドマークと触診方法						
3	触診① 上腕と前腕						
4	触診② 手関節と手指						
5	触診③ 股関節と膝関節						
6	触診④ 頸部と体幹						
7	触診最終確認および実技テスト						
8	姿勢分析①（正常な姿勢）						
9	姿勢分析②（異常姿勢）						
10	姿勢分析③（姿勢まとめと記載方法）						
11	歩行分析①（正常歩行）						
12	歩行分析②（異常歩行）						
13	歩行分析③（歩行のまとめ）						
14	基本動作分析①（起き上がりの分析）						
15	基本動作分析②（座位保持の分析）						
16	基本動作分析③（立ち上がりの分析）						
17	日常生活動作分析①（グループワーク）						
18	日常生活動作分析②（グループワーク）						
19	日常生活動作分析③（グループワーク）						
20	日常生活動作分析④（グループワーク）						
21	日常生活動作分析⑤（発表）						
22	日常生活動作分析⑥（発表）						
23	運動学演習まとめ						
履修者へのコメント ※10.5時間以上の自己学習を要する。 ・ペアワーク, グループワークにて授業を進める。 ・触診を行うため, 動きやすい服装, 触知しやすい服装で臨むこと。 ※ただし、触診等の接触において不具合がある場合は事前に担任に相談してください。							
テキスト 基礎運動学 第7版（医歯薬出版）							
参考書 ※図書室にあります ・誰でもわかる動作分析（南江堂） ・誰でもわかる動作分析Ⅱ（南江堂） ・誰でもわかる動作分析Ⅲ（南江堂） ・理学療法士のための運動療法（金原出版） ・機能解剖学的触診技術上肢・下肢・体幹（MEDICAL VIEW）							

I. 基礎分野 i) 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	II 専門基礎分野
II. 専門基礎分野 i) 人体の構造と機能及び心身の発達 ii) 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 iii) 保健医療福祉とリハビリテーションの理念 III. 専門分野 i) 基礎作業療法学 ii) 作業療法管理学 iii) 作業療法評価学 iv) 作業療法治療学 v) 地域作業療法学 vi) 臨床実習 IV. 選択必修専門分野 i) 作業療法治療学特論	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進
	14単位

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
病理学		講義・演習	前期	OT1年	1単位	30時間	福井謙二
教 育 目 標	【一般目標】 1. 全身の各臓器に共通な病変を分類し理解する。 2. 疾病の原因と、それによって生じる形態学的な変化を理解し、さらに、どのような機能的障害が引き起こされるかを理解する。 3. 各臓器・系統別に疾病の成り立ちについて理解する。 【行動目標】 1. 疾病の原因について説明できる。2. 先天異常、奇形について説明できる。3. 退行性病変について説明できる。4. 進行性病変について説明できる。5. 循環障害について説明できる。6. 炎症について説明できる。7. 免疫について説明できる。8. 感染症について説明できる。9. 腫瘍について説明できる。10. 死因統計について説明できる。11. 循環器系の疾患について説明できる。12. 血液、造血器系の疾患について説明できる。13. 呼吸器系の疾患について説明できる。14. 消化器系の疾患について説明できる。15. 腎、泌尿器系、生殖器系、乳腺の疾患について説明できる。16. 神経系の疾患について説明できる。17. 運動器系の疾患について説明できる。						
	成績評価方法 定期試験により評価する。						
回	内 容						担当者
1	病理学の意義。病理診断の方法。病因論。病変の種類						福井謙二
2	先天異常，奇形						
3	退行性病変，代謝障害						
4	進行性病変						
5	循環障害						
6	炎症，免疫						
7	感染症						
8	腫瘍，死因統計						
9	循環器系の疾患						
10	血液，造血器系の疾患						
11	呼吸器系の疾患						
12	消化器系の疾患						
13	腎，泌尿器，生殖器系，乳腺の疾患						
14	神経系の疾患						
15	運動器系の疾患						
履修者へのコメント ※22.5時間以上の自己学習を要する。 ・病理学の理解を深めるためには，解剖学や生理学などの基礎医学を十分理解することが重要である。 ・テキストは授業で使用する。							
テキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[1] 病理学 大橋健一，谷澤 徹，藤原正親，柴原純二著 (医学書院)							
参考書 なし							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
臨床心理学		講義	後期	OT1年	1単位	15時間	松平友見
教 育 目 標	【一般目標】 人間の異常心理、その評価および治療技法に関する基本的知識を習得する。 【行動目標】 1. 異常心理（精神症状）の種類と特徴を理解し、説明することができる。 2. 心理的アセスメントの方法を理解し、説明することができる。 3. 心理療法・援助技法を理解し、説明することができる。						
成 績 評 価 方 法	定期試験により評価する。						
回	内 容						担当者
1	臨床心理学概論						松平友見
2	異常心理学						
3	心理的アセスメント						
4	精神分析①						
5	精神分析②						
6	認知行動療法①						
7	認知行動療法②						
8	クライアント中心療法						
履修者へのコメント ※33時間以上の自己学習を要する。 心理学(前期)で学んだ知識をもとに、こころの障害や不適応、心理的アセスメント、治療や援助の手法について学びます。							
テキスト 中川 明仁ほか（編著）. (2024). 心理学・臨床心理学（Crosslink basic リハビリテーションテキスト）. メジカルビュー社.							
参考書 はじめて出会う心理学 第3版 長谷川寿一ほか著（有斐閣アルマ, 2020）							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
内科学		講義・演習	後期	OT1年	1単位	30時間	田崎裕紀
教 育 目 標	【一般目標】 内科学的疾患の病態・生理の特性を知りリハビリテーション専門職としての知識を培う。 【行動目標】 1. 主要疾患に対する病態を理解し、説明できる。 2. 内科学的疾患に対する医学的治療をリハビリテーション専門職として支援できる内容を理解し、説明できる。						
成 績 評 価 方 法	国家試験形式の客観試験により評価する。						
回	内 容						担当者
1	第1章 内科診療の実際；診療の基本						田崎裕紀
2	第2章 呼吸器疾患；解剖と生理、症候						
3	第2章 呼吸器疾患；検査、主な疾患						
4	第3章 循環器疾患；解剖と生理症候						
5	第3章 循環器疾患；症候、検査						
6	第3章 循環器疾患；主な疾患						
7	第4章 消化管疾患；解剖と生理、症候						
8	第4章 消化管疾患；検査、主な疾患						
9	第5章 肝・胆・膵疾患；解剖と生理、症候、主な疾患						
10	第5章 肝・胆・膵疾患；主な疾患						
11	第8章 腎・泌尿器疾患；解剖と生理						
12	第8章 腎・泌尿器疾患；症候、主な疾患						
13	第12章 感染症；解剖と生理						
14	第12章 症候、主な疾患						
15	まとめ						
履修者へのコメント ※22.5時間以上の自己学習を要する。							
テキスト なるほどなっとく！内科学 改訂第3版（南山堂）							
参考書							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
整形外科科学		講義・演習	後期	0T1年	1単位	30時間	山下晶子
教 育 目 標	【一般目標】 人体の運動器官にかかわる疾患の診断と治療, 整形外科分野でのリハビリテーションについての知識を身につける。 【行動目標】 総論として骨・関節, 神経・筋肉の機能解剖、病態および運動評価や検査について学び, 各論として各疾病疾患（炎症、内分泌性、退行性、先天性、循環器、神経・筋肉、脊椎）と外傷性疾患（骨折、脊髄損傷、外傷性疾患、スポーツ障害、熱傷、切断および離断）について学ぶ。						
成績評価方法	定期試験、期末レポートで総合的に評価する。						
回	内 容						担当者
1	整形外科基礎知識 1：骨・関節						山下晶子
2	整形外科基礎知識 2：神経、骨・関節・神経の病態生理						
3	運動器および身体機能の評価						
4	運動器および身体機能の検査法						
5	一般的整形外科的治療法：保存療法/手術療法/理学・作業療法						
6	炎症性疾患：感染性・非感染性疾患・膠原病						
7	代謝・内分泌性疾患、退行性疾患						
8	先天性骨・関節疾患、循環障害と壊死性疾患						
9	骨・軟部腫瘍、神経・筋疾患						
10	骨折						
11	脊椎の疾患						
12	脊髄損傷、関節における外傷性疾患						
13	末梢性神経における外傷性疾患						
14	熱傷・凍傷、切断および離断・義肢						
15	スポーツ障害						
履修者へのコメント ※22.5時間以上の自己学習を要する。 毎回の教科書の該当部位を読んで予習してください。不十分な点は次回に質問時間を設定します。							
テキスト 標準整形外科科学 第16版（医学書院）							
参考書 ・授業内で資料を配布します。 ・解剖学の教科書を参考にしてください。							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
神経内科学		講義・演習	後期	OT1年	1単位	30時間	高梨翼
教 育 目 標	【一般目標】 リハビリテーションの対象として神経疾患の頻度は最も高く、リハビリテーションスタッフやそれを目指す学生にとって重要な分野である。神経内科学の講義では、神経解剖・神経生理などの基礎医学を学習したあと、それに基づいた神経症候学を学習する。その後、神経内科学各論では、神経内科のほか脳外科・小児神経科などであつかう神経疾患全般について学習する。そのため上記の内容を理解できる、説明できることを目標とする。						
成 績 評 価 方 法	定期試験により評価する。						
回	内 容						担当者
1	神経症候①（高次脳機能障害、失語症、失認証、失行症）						高梨翼
2	神経症候②（知的障害・記憶障害・認知症等）						
3	神経症候③（運動失調、意識障害、嚥下障害等）						
4	神経症候④（錐体路徴候、錐体外路徴候、感覚障害、末梢神経症候、自律神経症候）						
5	脳血管障害①						
6	脳血管障害②						
7	脳血管障害③						
8	中枢神経変性疾患						
9	中枢神経脱髄疾患						
10	脳腫瘍						
11	末梢神経障害						
12	筋原性筋委縮疾患						
13	神経感染症疾患						
14	神経疾患合併症						
15	まとめ						
履修者へのコメント ※22.5時間以上の自己学習を要する。 解剖学・生理学・病理学など基礎医学の習得が不十分であると神経内科学の履修に支障を来すため、これら前期科目の復習を各自おこなってから講義にのぞむこと。履修範囲が多いため、授業中に説明できなかった項目については各自でテキストに目を通すこと。							
テキスト 病気がみえる⑦ 「脳・神経」 第3版 （メディックメディア）							
参考書							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
臨床医学と画像診断		講義・演習	後期	OT1年	1単位	30時間	小島正義
教 育 目 標	【一般目標】 リハビリテーションの実践に必要な脳血管疾患・整形疾患等の基礎知識と画像診断に必要な基礎的な知識を身に付けることができる。						
	【行動目標】 1. 脳血管疾患・整形疾患等の基礎的な疾患の概要について説明することができる。 2. 画像診断に関する過去の国家試験を解くことができる。 3. リハビリテーション実践において、画像診断による基礎疾患の予後やリスクについて説明することができる。						
成 績 評 価 方 法	定期試験で判定する。						
回	内 容						担当者
1	画像診断学総論（リハビリになぜ必要なのか？等）						小島正義
2	脳の基本的知識、脳画像(CT・MRI)とその症状①（各スライス）						
3	脳画像とその症状②（各スライス）						
4	脳画像とその症状③（各スライス）						
5	脳画像（CT・MRI）のまとめ①						
6	脳画像（CT・MRI）のまとめ②						
7	脳の血管の診かた						
8	骨・関節の画像の診かた						
9	骨・関節疾患の特徴と画像診断①						
10	骨・関節疾患の特徴と画像診断②						
11	半月板・靱帯等の損傷とスポーツ障害①						
12	半月板・靱帯等の損傷とスポーツ障害②						
13	脊椎・脊髄の画像診断						
14	胸部画像（CT・MRI）、嚥下の診かた						
15	まとめ						
履修者へのコメント ※22.5時間以上の自己学習を要する。 ・パワーポイント資料で講義を進めます。・その都度、関連する過去の国家試験問題の解説も行うため、事前の国試対策としても意識してください。・授業の理解度・進行状況により、授業内容の変更する場合もあるため、必ず前回授業の資料は持ってきてください。							
テキスト リハビリテーション医療に活かす画像のみかた 第2版（南江堂）							
参考書 随時、必要に応じて紹介します。							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
精神医学		講義・演習	後期	OT1年	1単位	30時間	熊谷淳平
教 育 目 標	【一般目標】 精神医学全般について基礎事項を学び,各精神疾患を理解することができる。 また精神疾患を科学的・医学的視点から理解することで,ともすれば陥りやすい偏見を排除し,公正な視点及び態度を持って精神疾患罹患者に相対する技術を修得する。						
	【行動目標】 1. 精神医学の現状と歴史を理解できる。 2. 精神症状を把握する方法と治療について理解できる。 3. 各疾患における病態と治療方法を理解できる。 4. 地域医療, チーム医療における精神医学の在り方を理解できる。						
成 績 評 価 方 法	定期試験により判断する。						
回	内 容						担当者
1	【オリエンテーション】精神医学とは／精神医学の歴史／精神科病棟の現状						熊谷淳平
2	【精神医学総論①】精神症状を把握するために11の視点						
3	【精神医学総論②】精神症状の評価と診断方法						
4	【精神医学総論③】精神科の治療方法／薬物療法						
5	【精神医学各論①】脳器質性精神障害						
6	【精神医学各論②】統合失調症①						
7	【精神医学各論③】統合失調症②／気分障害①						
8	【精神医学各論④】気分障害②						
9	【精神医学各論⑤】精神作用物質による精神および行動の障害						
10	【精神医学各論⑥】神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害						
11	【精神医学各論⑦】成人のパーソナリティおよび行動の障害						
12	【精神医学各論⑧】児童・思春期精神障害						
13	【精神医学各論⑨】生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群						
14	【精神医学各論⑩】てんかん						
15	【精神医学総論④】地域・チーム医療における精神医学／入院形態／リエゾン精神医学						
履修者へのコメント ※22.5時間以上の自己学習を要する。 質問がある場合は随時対応しますので、遠慮なく声をかけてください。							
テキスト 標準理学療法学・作業療法学 精神医学 第4版増補版（医学書院）							
参考書 必要に応じて紹介していく。							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
小児科学		講義・演習	後期	OT1年	1単位	30時間	小島正義
教 育 目 標	【一般目標】 小児の障害を引き起こす主な疾患の原因、病態生理、徴候、診断と治療を学ぶ。						
	【行動目標】 1. 疫学、予後について説明できる。 2. 病因、症候について説明できる。 3. 検査（画像・生理検査を含む）、診断、治療について説明できる。 4. 小児の障害を引き起こす一般的疾患について説明できる。 5. 小児に関連する過去の国家試験を解くことができる。						
成績評価方法	定期試験で判定する。						
回	内 容						担当者
1	小児科学概論、新生児・未熟児、国家試験解説						小島正義
2	原始反射・姿勢反射、正常発達の評価、国家試験解説						
3							
4	脳性麻痺、二分脊椎、国家試験解説						
5	ペルテス病、筋ジストロフィー、国家試験解説						
6	遺伝疾患、発達障害①、国家試験解説						
7	発達障害②、国家試験解説						
8	循環器疾患						
9	呼吸器疾患						
10	消化器系疾患						
11	免疫・アレルギー疾患						
12	腎・泌尿器系疾患						
13	重症心身障害児、医療的ケア児						
14	児童虐待について、小児の言語聴覚障害について						
15	まとめ						
履修者へのコメント ※22.5時間以上の自己学習を要する。 ・パワーポイント資料で講義を進めます。・その都度、関連する過去の国家試験問題の解説も行うため、事前の国試対策としても意識してください。・授業の理解度・進行状況により、授業内容の変更する場合もあるため、必ず前回授業の資料は持ってきてください。・小テストを行うこともありますので、前回までの授業の復習は行ってください。							
テキスト 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第6版 （医学書院）							
参考書 小児科学は内科学と重複する点も多く、内科学の教科書を参考書として活用することにより、より理解が深まると思います。また、必要に応じて紹介します。							

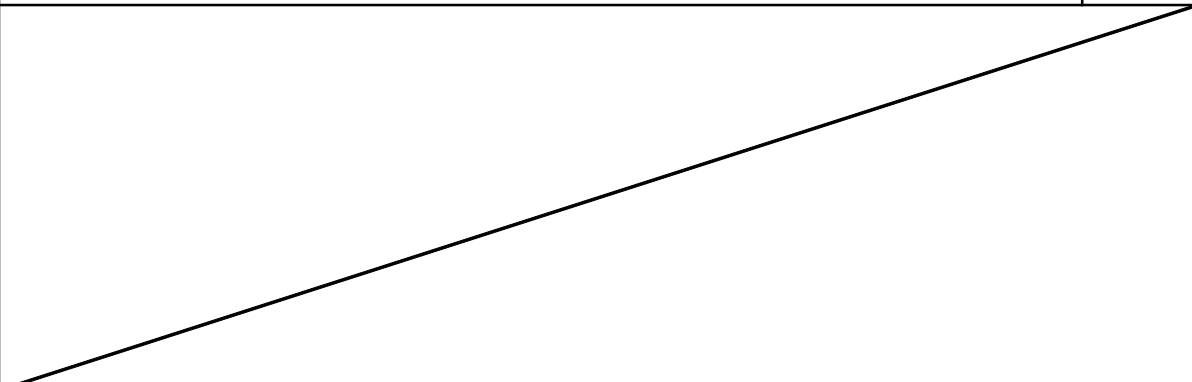
科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
老年医学		講義・演習	後期	OT2年	1単位	30時間	田崎裕紀
教 育 目 標	【一般目標】 老年期における病態、疾患、外傷の特性を知りリハビリテーション専門職としての知識を培う。 【行動目標】 1. 老年期障害の現状を知る。 2. チーム医療の中でのリハビリテーションチームの役割を知る。 3. リハビリテーション職としての老年期障害に対する医学的側面から治療・支援できることを知る。						
成 績 評 価 方 法	国家試験形式の客観試験により評価する。						
回	内 容						担当者
1	老化と老年病の考え方						田崎裕紀
2	加齢に伴う変化；生理的機能						
3	加齢に伴う変化；運動機能						
4	加齢に伴う変化；精神心理面						
5	高齢者の定義および人口動態						
6	高齢者との接し方・機能評価						
7	栄養状態の評価・臨床検査値の評価・薬物療法の考え方						
8	高齢者に多い症候と老年症候群						
9	循環器疾患						
10	呼吸器疾患；嚥下障害						
11	神経疾患；Parkinson病						
12	認知症と精神疾患；Alzheimer病						
13	骨粗鬆症と運動機能疾患						
14	高齢者をとりまく環境						
15	まとめ						
履修者へのコメント ※22.5時間以上の自己学習を要する。							
テキスト 標準理学療法学 作業療法学 専門基礎分野 老年学 第6版（医学書院）							
参考書							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
予防医学と公衆衛生		講義	前期	OT1年	1単位	15時間	小島正義
教 育 目 標	【一般目標】 1. 疾病予防と健康増進の重要性を理解し、高齢化時代の新しい専門職として自分の役割を見いだせる。 2. 新型コロナウイルス感染症を踏まえて安全で効果的な専門職としての対処を考える。 3. 生活習慣病の効果的な予防改善を理解し、高齢者に活かした新しい事業を考えていく。						
	【行動目標】 1. 疾病予防、健康増進の概念、健康づくり施策、健康サービスを理解することができる。 2. 公衆衛生分野における自分の役割を考え、高齢化時代の新しい事業を考えることができる。 3. ライフステージに合わせた健康問題の対処法を考えることができる。						
成績評価方法	定期試験、提出物により総合的に判定する。						
回	内 容						担当者
1	ガイダンス、公衆衛生学、社会医学、予防医学						小島正義
2	疫学と衛生統計						
3	生活環境と疾病コントロール						
4	生活習慣病予防						
5	ヘルスプロモーション						
6	ライフサイクルと健康サービス						
7	ライフスタイルと健康サービス						
8	災害医療・まとめ						
履修者へのコメント ※33時間以上の自己学習を要する。 ・テキスト必携 ・理解を深めるために、予習・復習をする。 ・授業中のメモとディスカッションは積極的に行う。 ・新聞テレビのマスコミの報道をよく聞いて考える。							
テキスト 医療職のための公衆衛生・社会医学 第10版 (エムスリーエデュケーション)							
参考書 ・国民衛生の動向 (厚生労働統計協会) 編：厚生労働統計協会 ・理学療法士・作業療法士のためのヘルスプロモーション 編集 日本ヘルスプロモーション理学療法学会 (南江堂)							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
リハビリテーション医学		講義・演習	前期	OT2年	1単位	30時間	熊谷淳平
教 育 目 標	【一般目標】 1. 総合リハビリテーション医療・自立生活について学び理解し説明できる。 2. リハビリテーション医学の対象となる障害と疾病について学び理解し説明できる。 【行動目標】 リハビリテーション医学の対象となる障害と疾病についての障害像とその治療回復や予後について理解し説明できる。						
成 績 評 価 方 法	各講義でのレポート提出、小テスト及び定期試験にて判定する。						
回	内 容						担当者
1	リハビリテーション医学の概念（リハビリ医療の目的とチーム医療）						熊谷淳平
2	障害の分類と評価（ I C F の理解）						
3	リハビリテーションの流れ（急性期、回復期、生活期）						
4	脳血管疾患（病態、麻痺、高次脳機能障害）						
5	脳外傷（認知障害、行動障害）						
6	脊髄損傷（四肢麻痺と自律神経障害）						
7	神経筋疾患						
8	整形外科疾患						
9	切断と義肢（切断原因と義肢リハビリ）						
10	小児リハビリテーション						
11	内部障害リハビリテーション						
12	高齢者リハビリテーション（フレイル、転倒、廃用）						
13	リハビリテーション合併症（深部静脈栓、褥瘡、廃用症候群）						
14	精神疾患リハビリテーション（薬物療法と作業療法）						
15	リハビリテーションと福祉機器						
履修者へのコメント ※22.5時間以上の自己学習を要する。							
テキスト PT・OTビジュアルテキスト 専門基礎 リハビリテーション医学（羊土社）							
参考							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
人体と薬理		講義	前期	OT1年	1単位	15時間	小島正義
教 育 目 標	【一般目標】 リハビリテーションに関連する疾患における薬物・薬理の基礎的な知識を身に付ける。 【行動目標】 1. 各疾患における代表薬物、作用機序等について説明することができる。 2. 薬理学に関連する過去の国家試験を解くことができる。						
成 績 評 価 方 法	定期試験で判定する。						
回	内 容						担当者
1	オリエンテーション、薬理学の定義、薬の主作用・副作用、薬理学を学ぶ意義等						小島正義
2	薬物の体内の流れ、肝臓・腎臓等の役割、関連国試解説						
3	パーキンソン氏病とその薬、関連国試解説						
4	統合失調症とその薬、関連国試解説						
5	認知症とその薬、関連国試解説						
6	薬物依存、関連国試解説						
7	慢性関節リウマチとその薬、関連国試解説						
8	臨床に出てくる薬、関連国試解説、まとめ						
履修者へのコメント ※33時間以上の自己学習を要する。 ・パワーポイント資料で講義を進めます。・その都度、関連する過去の国家試験問題の解説も行うため、事前の国試対策としても意識してください。・授業の理解度・進行状況により、授業内容の変更する場合もあるため、必ず前回授業の資料は持ってきてください。							
テキスト リハベーシック 薬理学・臨床薬理学 第2版（医歯薬出版株式会社）							
参考書 ・シンプル薬理学 改訂第6版 （南江堂） ・随時、必要に応じて紹介します。							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
救命救急の基礎		講義	前期	OT1年	1単位	15時間	石塚光宣
教 育 目 標	【一般目標】 1. 救急医療の特徴を理解できる。 2. 救急医療に求められる予測性をもった病態アセスメントができる。 3. 災害医療の特徴を理解できる。						
	【行動目標】 1. 救急・災害医療体制の基礎を理解できる。 2. 救急医療システムを理解できる。 3. 救急医療における主要な疾患の病態を理解できる。 4. AEDなど適切に使用することができる。						
成 績 評 価 方 法	レポートにて総合的に評価する。						
回	内 容						担当者
1	救急医療の沿革と救急業務の現状と課題について						石塚光宣
2	救急受け入れ体制						
3	心肺蘇生法（成人）						
4	心肺蘇生法（乳児・小児）						
5	AED取り扱い						
6	異物除去						
7	創傷・止血						
8	災害医療・心肺蘇生法まとめ						
履修者へのコメント ※33時間以上の自己学習を要する。							
テキスト							
参考書							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
人体と栄養		講義	前期	OT1年	1単位	15時間	本多友美恵
教 育 目 標	【一般目標】 『人体と栄養』では「栄養の意義」・「栄養素の働き」・「疾患別栄養療法」・「ライフステージ別の栄養」・「スポーツ栄養」について学ぶ。コメディカルの知識としてだけではなく、栄養の力について理解を深め、毎日の食事の大切さを一人の人として向き合い、自身の食生活に活かせるようになる。そして健康の保持・増進や疾病の予防における栄養の役割を正しく理解し、健康な生涯を送るために適切な食事について考え、実践できるようになる						
	【行動目標】 毎日の3食の食事で、自身の健康のために不足するもの、過剰なものを考えながら食べることができるようになる。また将来医療現場で患者の栄養状態、リハビリにおける栄養の重要性を理解した医療行為が行なえるよう、基本的な知識を身につける。						
成績評価方法	定期試験および小テストで評価する。						
回	内 容						担当者
1	栄養とは・エネルギー						本多友美恵
2	栄養素の基礎知識①（炭水化物、たんぱく質、脂質）						
3	栄養素の基礎知識②（ビタミン、ミネラル）						
4	代謝の仕組み						
5	疾患別食事療法①						
6	疾患別食事療法②						
7	ライフステージ別栄養						
8	運動と栄養						
							
履修者へのコメント ※33時間以上の自己学習を要する。 毎日みなさんが食べる食事、それは栄養学の宝庫です！こんなにも生活に密着している科目があるでしょうか？この講義を通して、食事の大切さを知ってもらいたい！！日々の食生活への疑問、食品や栄養素への質問をお待ちしています！！							
テキスト 栄養の基本がわかる図解事典 改訂版 （成美堂出版）							
参考書							

I. 基礎分野 i) 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	II 専門基礎分野
II. 専門基礎分野 i) 人体の構造と機能及び心身の発達 ii) 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 iii) 保健医療福祉とリハビリテーションの理念 III. 専門分野 i) 基礎作業療法学 ii) 作業療法管理学 iii) 作業療法評価学 iv) 作業療法治療学 v) 地域作業療法学 vi) 臨床実習 IV. 選択必修専門分野 i) 作業療法治療学特論	保健医療福祉とリハビリテーションの理念
	4単位

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
職業関連リハビリテーション学		講義	前期	OT1年	1単位	15時間	土居義典
教 育 目 標	【一般目標】 作業療法士として職業リハビリテーションへの理解を深める。 【行動目標】 地域における職業リハビリテーションにおける理学療法士の役割を説明できる。						
成 績 評 価 方 法	定期試験、提出物で総合的に判定する。						
回	内 容						担当者
1	地域における職業リハビリテーションとは						土居義典
2	職業リハビリテーションにおける作業療法士の役割とは						
3	障害者就労支援とは						
4	共生社会に向けた就労支援						
5	障害者就労支援の共通目標						
6	障害者就労支援のポイント						
7	役割分担と連携						
8	障害特性を踏まえた支援						
履修者へのコメント ※33時間以上の自己学習を要する。 講義、グループディスカッションを通して幅広い支援方法を学んでください。							
テキスト 参考書を抜粋しPP、プリントにて配信							
参考書 「障害や疾病のある人の就労支援の基礎知識～誰もが職業をとおして社会参加できる共生社会に向けて」 参照独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 障害者職業総合センター著書							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
リハビリテーション概論		講義	前期	OT1年	1単位	30時間	熊谷淳平
教 育 目 標	【一般目標】 1. リハビリテーションを正しく理解する。 2. リハビリテーションに関する知識を身につけ、述べることができる。 【行動目標】 1. リハビリテーションの定義と目標を説明することができる。 2. リハビリテーションに関する各知識を説明することができる。						
成 績 評 価 方 法	提出物・定期試験により総合的に判定する。						
回	内 容						担当者
1	リハビリテーションとは何か（定義とモデル、障害観）						熊谷淳平
2	リハビリテーションの歴史（戦争とリハビリ、世界と日本のリハビリの発展）						
3	障害の概念（ICIDHとICF）						
4	チーム医療とリハビリテーション専門職①（Dr. PT. OT. ST）						
5	チーム医療とリハビリテーション専門職②（Nrs. MSW. PSW. CW. CM）						
6	リハビリテーションの対象疾患（脳卒中、整形外科疾患、小児疾患、精神疾患）						
7	リハビリテーションの流れ（急性期、回復期、生活期）						
8	地域リハビリテーション（地域包括ケア、在宅ケア）						
9	生活とリハビリ（ADL、IADL, QOL）						
10	障害体験（視覚制限、片麻痺体験、車いす体験）／障害受容						
11	リハビリテーションの社会制度（障害者福祉制度、医療保険と介護保険）						
12	就労支援（職業リハビリ、障害者雇用）						
13	リハビリテーションの倫理（患者の尊厳、インフォームドコンセント）						
14	リハビリの未来（AI、テクノロジー、ロボット工学）						
15	まとめ（理想のリハビリテーションの在り方とは）						
履修者へのコメント ※22.5時間以上の自己学習を要する。 必要に応じてPCを持参させるため、充電を含め準備しておくこと							
テキスト 必要に応じてプリントを配布する。							
参考書 随時、必要に応じて紹介する。							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
地域マネジメント論		講義	前期	OT2年	1単位	15時間	柘植哲洋
教 育 目 標	【一般目標】 1. 地域リハビリテーションの概念や地域における作業療法士の役割を理解できる。 2. 社会保障制度について学び、支援に必要な知識を習得する。 3. 地域包括ケアシステムの考え方について学び、自助・互助の必要性和多職種連携の重要性が理解できる。 4. 生活行為向上マネジメントについて学び、理解する。						
	【行動目標】 1. 地域リハビリテーションの定義や考え方、その中での作業療法士の役割について述べるができる。 2. 各制度特に、介護認定の流れを把握し、介護度についての特徴、違いを述べるができる。 3. 地域包括ケアシステムについての考え方や他職種の役割について説明ができる。 4. 生活行為向上マネジメントツールを用いたマネジメントの進め方について説明ができる。						
成 績 評 価 方 法	定期試験、調査課題のプレゼンテーション、提出物などにより総合的に判断する。						
回	内 容						担当者
1	地域リハビリテーションの概要 MTDLPについて						柘植哲洋
2	社会保障制度・介護保険制度（介護度、介護認定の流れ）、障害者総合支援法						
3	地域作業療法のステージ：各領域での支援内容と関わり方①						
4	地域作業療法のステージ：各領域での支援内容と関わり方②、調査課題提示						
5	地域包括ケアシステムについて、地域支援事業（介護予防事業）						
6	地域に求められる作業療法士の役割：地域ケア会議、認知症初期集中支援チーム 等						
7	各市町村の社会資源について（調査結果のプレゼンテーション）①						
8	各市町村の社会資源について（調査結果のプレゼンテーション）②						
履修者へのコメント ※33時間以上の自己学習を要する。 授業形式は講義中心とする。講義終盤で、各自に調査課題を提示しプレゼンテーションして頂く予定である。							
テキスト 標準作業療法学 地域作業療法学 第4版（医学書院）							
参考書 事例で学ぶ生活行為向上マネジメント（日本作業療法士協会編著、医歯薬出版）							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
多職種連携演習		演習	通年	OT1年	1単位	45時間	平和台病院 オムニバス
教 育 目 標	【一般目標】 チーム医療の概念と基礎知識を学び、これを理解することができる。 リハビリテーションに携わる他職種の業務内容や役割を知り相互に連携に必要な素養を養う。						
	【行動目標】 1. チーム医療の概念を説明することができる。 2. チーム医療を担う各構成員の専門性と役割を説明することができる。 3. チーム医療を担う各構成員とのあるべき連携について説明することができる。 4. チーム医療における理学療法士・作業療法士の業務や役割を説明できる。						
成 績 評 価 方 法	定期試験にて判定する。						
回	内 容						担当者
1	急性期病棟(内科)の業務・連携						平和台 病院 オムニバス
2	急性期病棟(整形外科)の業務・連携						
3	地域包括ケア病棟の業務・連携						
4	回復期病棟の業務・連携						
5	外来リハビリの業務・連携						
6	介護部門 デイケアの業務・連携						
7	訪問リハビリの業務・連携						
8	言語聴覚士の業務・連携						
9	NSWの業務・連携						
10	管理栄養士の業務・連携						
11	薬剤師の業務・連携						
12	介護支援相談員の業務・連携						
13	臨床工学技士の業務・連携①						
14	臨床工学技士の業務・連携②						
15	看護師の業務・連携①						
16	看護師の業務・連携②						
17	看護師の業務・連携③						
18	看護師の業務・連携④						
19	看護師の業務・連携⑤						
20	看護師の業務・連携⑥						
21	リハビリテーション科の地域活動						
22	リハビリテーション科と他職種の書類						
23	リハビリテーションマネジメント						
履修者へのコメント ※10.5時間以上の自己学習を要する。 ・リハビリテーション職と他職種それぞれの業務内容・連携を学ぶことで、自身が目指す職種の役割について深く理解できることを期待します。 ・授業の進行度合いによって、講義内容及び順序を変更することがあります。							
テキスト なし(講義内で適宜資料配布を行う)							
参考書 講義内で必要に応じて紹介をする。							

I. 基礎分野 i) 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	Ⅲ 専門分野
II. 専門基礎分野 i) 人体の構造と機能及び心身の発達 ii) 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 iii) 保健医療福祉とリハビリテーションの理念 III. 専門分野 i) 基礎作業療法学 ii) 作業療法管理学 iii) 作業療法評価学 iv) 作業療法治療学 v) 地域作業療法学 vi) 臨床実習 IV. 選択必修専門分野 i) 作業療法治療学特論	基礎作業療法学
	5単位

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
作業療法概論		講義・演習	前期	OT1年	1単位	30時間	小島正義
教 育 目 標	【一般目標】 作業療法の概要を理解する。 作業療法士に求められる知識・態度・技術を理解する。 一般的な作業療法のながれ、活躍領域を理解する。						
	【行動目標】 1. 作業療法の概要を説明できる。 2. 作業療法士に求められる知識・態度・技術を説明できる。 3. 一般的な作業療法の流れを説明できる。 4. 作業療法が活躍する領域（就職先）を列挙できる。						
成績 評価 方法	・ 期末筆記試験、グループワーク等により総合的に評価する。 ・ 『作業療法士』として講義に臨む姿勢を評価する。 ・ レポート・課題等の内容・提出を評価する。						
回	内 容						担当者
1	リハビリテーション・作業療法とは						小島正義
2	ICF、障害の受容						
3	作業療法の歴史、作業療法の対象領域と疾患						
4	動作分析						
5	作業分析						
6	作業療法における評価の意義（１） 身体面						
7	作業療法における評価の意義（２） 精神面						
8	作業療法の実際（１） 急性期・回復期						
9	作業療法の実際（２） 維持期・在宅						
10	作業療法の実際（３） 福祉施設						
11	作業療法の実際（４） 介護予防						
12	作業療法部門の記録と報告①						
13	作業療法部門の記録と報告②						
14	作業療法部門の管理運営						
15	求められる作業療法士とは・総括（試験について）						
履修者へのコメント ※22.5時間以上の自己学習を要する。 受講の際には、 ①教科書、②ネット検索機器（スマホ・PC等）、③教科書等線を引く『マーカー』を必携すること。							
テキスト 標準作業療法学 作業療法学概論 第4版（医学書院）							
参考書 レクチャーシリーズ 作業療法テキスト 作業療法概論（中山書店）							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
作業療法理論		講義	前期	OT2年	1単位	15時間	熊谷淳平
教 育 目 標	【一般目標】 作業療法の治療原理となる理論を概観し、理解できる。 【行動目標】 1. 作業療法における理論の重要性を説明できる。 2. 各作業療法理論における概要を説明できる。 3. 臨床現場にて作業療法理論を導入することの意義を説明できる。						
成 績 評 価 方 法	全ての授業が終了した後に課す、レポートにて判定を行う。						
回	内 容						担 当 者
1	作業療法における理論とは						熊谷淳平
2	作業に根差した実践 - OBP - （超メタ理論）						
3	作業科学（メタ理論）						
4	人間作業モデル（大範囲理論）						
5	カナダモデル（大範囲理論）						
6	生活行為向上マネジメント（プロセスモデル）						
7	作業療法介入プロセスモデル（プロセスモデル）						
8	臨床における作業療法理論の導入と使用する際の倫理について						
履修者へのコメント ※33時間以上の自己学習を要する。 随時、質問を受け付けていますので、遠慮なく声をかけてください。							
テキスト 5W1Hでわかりやすく学べる 作業療法理論の教科書（メジカルビュー社）							
参考書 必要に応じて紹介していく。							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
作業療法研究法		講義・演習	後期	OT2年	1単位	30時間	熊谷淳平
教 育 目 標	【一般目標】 作業療法にて用いられる研究手法の概観を説明できる。 様々な研究法を理解し、実習後に事例報告をまとめることができる。 【行動目標】 1. 作業療法における研究の重要性について説明できる。 2. 各研究の概要を説明できる。 3. 研究論文を検索し、その概要をまとめ、導入することができる。						
成績評価方法	授業後に提示するレポート課題及び定期試験にて判定する。						
回	内 容						担当者
1	オリエンテーション／作業療法と研究（作業療法と E B M、臨床研究の必要性）						熊谷淳平
2	研究とは何か（研究の種類、仮説、研究目的）						
3	研究倫理（倫理審査、インフォームドコンセント、個人情報）						
4	研究テーマの設定（研究課題の見つけ方、臨床疑問）						
5	文献検索（医学データベースの取り扱い方）						
6	論文の読み解き方（論文の構造について）						
7	研究デザイン						
8	測定と評価（評価尺度、信頼性と妥当性）						
9	データ収集（アンケート、観察、実験）						
10	基本統計（平均、標準偏差、有意差）						
11	データ分析（グラフ）						
12	結果の解釈（統計と臨床的意義、バイアス）						
13	研究計画作成						
14	研究発表						
15	まとめ（臨床と研究）						
履修者へのコメント ※22.5時間以上の自己学習を要する。							
テキスト							
参考書							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
作業療法研究法演習		演習	前期	OT3年	1単位	45時間	高梨翼
教 育 目 標	【一般目標】 作業療法の研究方法を理解し、研究の一連の流れを体験する。 【行動目標】 1. 量的研究の方法について説明できる。 2. 質的研究の方法について説明できる。						
成 績 評 価 方 法	講義中に行うグループワーク参加度、提出課題の内容により総合的に評価する。						
回	内 容						担当者
1	量的研究テーマの選定						高梨翼
2	量的研究デザインの作成 1						
3	量的研究デザインの作成 2						
4	量的研究デザインの作成 3						
5	データの収集						
6	データのまとめ						
7	データの解釈・考察 1						
8	データの解釈・考察 2						
9	報告書の作成 1						
10	報告書の作成 2						
11	発表 1						
12	発表 2						
13	質的研究テーマの選定						
14	質的研究デザインの作成 1						
15	質的研究デザインの作成 2						
16	データの収集						
17	データのまとめ						
18	データの解釈・考察 1						
19	データの解釈・考察 2						
20	報告書の作成 1						
21	報告書の作成 2						
22	発表 1						
23	発表 2						
履修者へのコメント ※10.5時間以上の自己学習を要する。 授業の理解度・進行状況により、授業内容を変更する場合があるため、注意すること。							
テキスト							
参考書 標準作業療法学 作業療法研究法（医学書院）							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
基礎作業分析学		講義・演習	後期	OT1年	1単位	30時間	牧内亮
教 育 目 標	【一般目標】 作業活動を通して、どんな視点（理論）を用いて分析していくのかを体験を通して理解する。 ADL動作において、基礎医学をもとに動作を分析する視点を理解する。 【行動目標】 1. 作業療法の特徴である『作業』に焦点をあて作業療法としての運用の仕方を身につける。 2. 作業の各工程を分析し治療として適応することの意義を説明できる。						
成 績 評 価 方 法	出席・提出物・定期試験により総合的に判定する。						
回	内 容						担当者
1	オリエンテーション・作業分析とは						牧内亮
2	実技（誰しもが馴染みのある活動を中心に）						
3	一般的分析（簡単な分析表を用いて分析）						
4	実技（ICTを用いて耐久性の求められる活動）						
5	一般的分析（詳細な分析表を用いて分析）						
6	実技（臨床で用いられる作業活動を中心に）						
7	一般的分析（詳細な分析表を用いて分析）						
8	実技（ADL動作の観察）						
9	限定的分析（動作分析表を用いて記載）						
10	実技（趣味活動の観察）						
11	限定的分析（実習で用いる動作分析表を用いて記載）						
12	ケーススタディ① リハビリテーション総合実施計画書作成						
13	ケーススタディ② ICFへの記載						
14	ケーススタディ③ SOAPへの記載						
15	総括・まとめ・定期試験ガイダンス						
履修者へのコメント ※22.5時間以上の自己学習を要する。 授業の理解度・進行状況により、授業内容を変更する必要があるため、注意すること。							
テキスト 標準作業療法学 基礎作業学 第4版（医学書院） ※必要に応じてプリントを配布する							
参考書 ひとと作業・作業活動（三輪書店） 「作業」って何だろう（医歯薬出版）							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
基礎作業分析学演習		演習	後期	OT1年	1単位	45時間	牧内亮
教 育 目 標	【一般目標】 対象者に身体機能・心身機能・社会的活動などの目的に応じた作業を提案できるようになるために、ものづくり等を通して作業の意味・要素・機能を理解し説明できる。						
	【行動目標】 1. 作品を完成させるために配置する作業の工程と道具の準備などを体験し、その作業の特性について理解し説明できる。 2. 作品を完成させるために行われる作業とその治療的応用について自らの体験を踏まえて説明できる。						
成績評価方法	・ 完成した作品とその工程などに関するレポート ・ 提出された作品とその取り組みをルーブリックを用い評価する。 ・ 上記の課題により総合的に評価する。						
回	内 容						担当者
1	オリエンテーション、革細工の肯定と道具を調べる						牧内亮
2	革細工①						
3	革細工①						
4	革細工①						
5	革細工①						
6	革細工①						
7	革細工②						
8	革細工②						
9	革細工②						
10	革細工②						
11	革細工②						
12	クラフトバンドの肯定と道具を調べる、クラフトバンド①						
13	クラフトバンド①						
14	クラフトバンド①						
15	クラフトバンド②						
16	クラフトバンド②						
17	クラフトバンド②						
18	塗り絵・ちぎり絵の肯定と道具を調べる、塗り絵・ちぎり絵						
19	塗り絵・ちぎり絵						
20	塗り絵・ちぎり絵						
21	レクリエーション計画（グループにて）						
22	レクリエーションの準備						
23	レクリエーションの実施						
履修者へのコメント ※10.5時間以上の自己学習を要する。 ・ 染料などを使うため汚れてもよい服装で参加すること・身だしなみ：当学院臨床実習の手引き参照 ・ 授業の進行状況により変更有り・グループワーク有り・臨床実習の手引きに記載される一般的心得に順じた態度で授業に臨むこと							
テキスト 適宜資料を提示する。							
参考書							

I. 基礎分野 i) 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	III 専門分野
II. 専門基礎分野 i) 人体の構造と機能及び心身の発達 ii) 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 iii) 保健医療福祉とリハビリテーションの理念 III. 専門分野 i) 基礎作業療法学 ii) 作業療法管理学 iii) 作業療法評価学 iv) 作業療法治療学 v) 地域作業療法学 vi) 臨床実習 IV. 選択必修専門分野 i) 作業療法治療学特論	作業療法管理学
	2単位

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
作業療法運営管理		講義	後期	OT3年	2単位	30時間	高梨翼
教 育 目 標	【一般目標】 各分野における作業療法を運営するための知識を理解する。 【行動目標】 1. 作業療法の現状を理解する。 2. 作業療法が求められる分野を説明できる。 3. 作業療法部門を管理・運営するための知識を理解できる。						
成 績 評 価 方 法	講義中に行うグループワークでの提出課題の内容により総合的に評価する。						
回	内 容						担当者
1	作業療法の歴史と現状（日本と世界の作業療法）						高梨翼
2	作業療法と生命・医療倫理（プロフェッショナリズム）						
3	作業療法と生命・医療倫理（ノーマライゼーション）						
4	作業療法と生命・医療倫理（インフォームドコンセントと個人情報保護）						
5	作業療法と関連法規（PT・OT法、医療・介護保険）						
6	作業療法と臨床疫学						
7	作業療法と医療統計						
8	エビデンスの基づく作業療法						
9	作業療法における健康維持と健康増進						
10	作業療法における予防医学（疾病、再発、障害予防）						
11	作業療法における管理・運営						
12	作業療法における管理・運営（安全・情報管理）						
13	作業療法の分類（仕事・生産的活動）						
14	作業療法の分類（遊び・余暇活動）						
15	総括①						
履修者へのコメント ※67.5時間以上の自己学習を要する。 特になし							
テキスト ・なし ・必要に応じて参考文献を紹介する。							
参考書 必要に応じて紹介する。							

I. 基礎分野 i) 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	III 専門分野
II. 専門基礎分野 i) 人体の構造と機能及び心身の発達 ii) 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 iii) 保健医療福祉とリハビリテーションの理念 III. 専門分野 i) 基礎作業療法学 ii) 作業療法管理学 iii) 作業療法評価学 iv) 作業療法治療学 v) 地域作業療法学 vi) 臨床実習 IV. 選択必修専門分野 i) 作業療法治療学特論	作業療法評価学
	5単位

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
身体機能障害作業療法評価学Ⅰ		講義・演習	前期	OT2年	1単位	30時間	高梨翼
教 育 目 標	【一般目標】 作業療法評価の目的・意義を理解し、それぞれの評価法に対しての基礎的な知識も修得する。						
	【行動目標】 1. 各評価法の目的・意義を説明できる。 2. 各評価法を実践できる。 3. 各評価法で使用する器具を理解し、適切に使用する事ができる。 4. 各評価法を実施する際の禁忌や留意点を理解し説明することができる。 5. 各評価法を正しい方法で専門用語を使用し記録、報告する事ができる。						
成績評価方法	定期試験、提出物で総合的に判定する。						
回	内容						担当者
1	評価とは						高梨翼
2	再評価と作業療法の効果判定、記録・報告の意義と特徴						
3	面接法・観察法						
4	意識、バイタルサインの測定, 臨床検査値の読み方						
5	形態計測						
6	関節可動域測定						
7	筋力検査						
8	感覚・知覚検査						
9	筋緊張検査						
10	反射、姿勢反射検査、バランス検査						
11	協調性検査						
12	脳神経検査						
13	摂食・嚥下機能検査、排泄機能検査						
14	上肢機能検査						
15	日常生活活動の評価						
履修者へのコメント ※22.5時間以上の自己学習を要する。 ・実技を行うこともあるため、学院指定のポロシャツ、ズボンを着用することもある ・爪は短く切り、アクセサリ類は全て外すこと。髪の毛の長い学生は束ねて授業に参加すること ・予習・復習を充分に行うこと							
テキスト 標準作業療法学 作業療法評価学 第4版（医学書院）							
参考書 指定なし、適宜紹介する。							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
身体機能障害作業療法評価学Ⅱ		講義・演習	前期	OT2年	1単位	30時間	高梨翼
教 育 目 標	【一般目標】 作業療法評価の目的・意義を理解し、それぞれの評価法に対しての基礎的な知識も修得する。						
	【行動目標】 1. 各評価法の目的・意義を説明できる。 2. 各評価法を実践できる。 3. 各評価法で使用する器具を理解し、適切に使用する事ができる。 4. 各評価法を実施する際の禁忌や留意点を理解し説明することができる。 5. 各評価法を正しい方法で専門用語を使用し記録、報告する事ができる。						
成 績 評 価 方 法	定期試験、提出物で総合的に判定する。						
回	内 容						担当者
1	脳血管障害・頭部外傷の評価①						高梨翼
2	脳血管障害・頭部外傷の評価②						
3	脊髄損傷の評価①						
4	脊髄損傷の評価②						
5	上肢の末梢神経損傷の評価①						
6	上肢の末梢神経損傷の評価②						
7	関節リウマチおよびその類縁疾患の評価①						
8	関節リウマチおよびその類縁疾患の評価②						
9	その他の疾患、神経・筋疾患の評価①（末梢神経疾患）						
10	その他の疾患、神経・筋疾患の評価②（脱髄疾患）						
11	その他の疾患、神経・筋疾患の評価③（神経変性疾患）						
12	その他の疾患、神経・筋疾患の評価④（筋疾患）						
13	内部疾患の評価①						
14	内部疾患の評価②						
15	総括						
履修者へのコメント ※22.5時間以上の自己学習を要する。 ・実技を行うこともあるため、日によっては学院指定のポロシャツ、ズボンを着用することもある。爪は短く切り、アクセサリ類は全て外すこと。髪の毛の長い学生は束ねて授業に参加すること。 ・予習・復習を充分に行うこと。							
テキスト ・標準作業療法学 作業療法評価学 第4版（医学書院） ・新・徒手筋力検査法 原著第10版 （協同医書出版）							
参考書 指定なし、適宜紹介する。							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
精神機能障害作業療法評価学Ⅰ		講義・演習	前期	OT2年	1単位	30時間	関美行
教 育 目 標	【一般目標】 1. 精神医療，保健，福祉の歴史と現在の流れについて理解する。 2. 精神障害領域における作業療法士の役割について理解する。 3. 各精神障害に対する作業療法評価法について理解および習得する。 4. 精神障害の特性や、精神障害によって生じる“生活のしづらさ”を理解する。 5. 精神障害に対して実施する作業療法の評価を理解し、実践できる。 【行動目標】 精神障害における評価法を積極的に理解し、実践できる。						
成 績 評 価 方 法	提出物、定期試験で総合的に評価する。						
回	内 容						担当者
1	精神科作業療法とは何か						関美行
2	作業療法の歴史と現状						
3	作業療法の手順						
4	作業療法の評価(方法、手順、項目)						
5	作業療法の評価(面接方法、作業面接)						
6	作業療法の評価(面接技法、観察)						
7	作業療法の評価①(面接と観察の演習)						
8	作業療法の評価②(面接と観察の演習)						
9	作業療法の評価③(面接と観察の演習)						
10	その他の評価法(グループワーク)						
11	その他の評価法(発表)、目標設定						
12	作業療法士が働く場、歴史と現状						
13	記録の書き方①(SOAP)						
14	記録の書き方②(SOAP)						
15	症例を整理するための考え方、まとめと試験対策						
履修者へのコメント ※22.5時間以上の自己学習を要する。 講義の進捗状況により、一部内容変更の可能性あります。							
テキスト 精神障害と作業療法【新版】 病いを生きる、病いと生きる 精神認知系作業療法の理論と実践 (三輪書店)							
参考書							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
精神機能障害作業療法評価学Ⅱ		講義・演習	前期	OT2年	1単位	30時間	南田昌子
教 育 目 標	【一般目標】 作業療法臨床における高次脳機能障害の評価技法について理解する。						
	【行動目標】 1. 脳の構造と機能を理解し説明できる。 2. 高次脳機能の各機能障害に対応する評価法を説明することができる。 3. 高次脳機能の各機能障害に対応する評価法を適切に選択することができる。 4. 高次脳機能の評価結果を適切に判断し、説明することができる。 5. 高次脳機能障害の観察評価時のポイントを説明することができる。						
成 績 評 価 方 法	定期試験で総合的に評価する。						
回	内 容						担当者
1	オリエンテーション、高次脳機能とその発達						南田昌子
2	脳解剖と画像診断						
3	評価と治療の流れ、多職種連携と作業療法士の役割						
4	注意障害						
5	記憶障害						
6	失語						
7	失行						
8	失認（対象認知の障害）						
9	半側空間無視						
10	遂行機能障害						
11	社会的行動障害						
12	認知症						
13	高次脳機能障害支援事業と就労支援						
14	高次脳機能障害と運転						
15	総括						
履修者へのコメント ※22.5時間以上の自己学習を要する。 授業の理解度・進行状況により、授業内容を変更する必要があるため、注意すること。							
テキスト 標準作業療法学 高次脳機能作業療法学 第3版（医学書院）							
参考書 ・標準作業療法学 作業療法評価学 第4版（医学書院） ・高次脳機能障害のリハビリテーション第3版（医学書院） ・高次脳機能障害の作業療法（三輪書店）							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
身体機能障害作業療法評価学演習		演習	前期	OT2年	1単位	45時間	加藤諒
教 育 目 標	【一般目標】 作業療法評価の目的・意義を理解し、実践、記録、報告する事ができる。						
	【行動目標】 1. 各評価の種類や分類を理解し、実践する事ができる。 2. 各評価で使用する器具を理解し、適切に使用する事ができる。 3. 各評価を実施する際の禁忌や留意点を理解し、実践する事ができる。 4. 各評価を正しい方法、専門用語を使用し記録、報告する事ができる。						
成績評価方法	定期試験および実技試験にて判定する。						
回	内 容						担当者
1	関節可動域測定の概要						加藤諒
2	関節可動域測定（肩関節）						
3	関節可動域測定（肘関節・前腕）						
4	関節可動域測定（手関節）						
5	関節可動域測定（肩甲帯）						
6	関節可動域測定（股関節）						
7	関節可動域測定（膝関節・足関節）						
8	関節可動域測定（頸部・体幹）						
9	徒手筋力検査の概要						
10	徒手筋力検査（肩甲帯）						
11	徒手筋力検査（肩関節）						
12	徒手筋力検査（肘関節・手関節）						
13	徒手筋力検査（手指）						
14	徒手筋力検査（股関節）						
15	徒手筋力検査（膝関節・足関節）						
16	徒手筋力検査（頸部・体幹）						
17	筋緊張検査						
18	片麻痺機能検査（Brunnstrom stage）①						
19	片麻痺機能検査（Brunnstrom stage）②						
20	反射①						
21	反射②						
22	感覚検査①						
23	感覚検査②						
履修者へのコメント ※10.5時間以上の自己学習を要する。 ・実技授業のため、学院指定のスクラブ、ズボンを着用する事。爪は短く切り、アクセサリ類は全て外すこと。髪の毛の長い学生は束ねて授業に参加すること。 ・予習・復習を充分に行うこと。							
テキスト ・標準作業療法学 作業療法評価学 第4版（医学書院） ・新・徒手筋力検査法 原著第10版（協同医書出版）							
参考書 症例動作分析（ヒューマン・プレス）							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
精神機能障害作業療法評価学演習		演習	前期	OT2年	1単位	45時間	高梨翼
教 育 目 標	【一般目標】 作業療法評価の目的・意義を理解し、実践、記録、報告する事ができる。						
	【個人目標】 1. 各評価の種類や分類を理解し、実践する事ができる。 2. 各評価で使用する器具を理解し、適切に使用する事ができる。 3. 各評価を実施する際の禁忌や留意点を理解し、実践する事ができる。 4. 各評価を正しい方法、専門用語を使用し記録、報告する事ができる。 5. スクリーニング検査と標準化された検査の目的を理解できる。 6. スクリーニング検査と標準化された検査を適切に実施できる。						
成 績 評 価 方 法	提出物・定期試験で総合的に判定する。						
回	内 容						担当者
1	高次脳機能障害の概要						高梨翼
2	スクリーニング【観察・面談】						
3	スクリーニング【HDS-R】						
4	スクリーニング【MMSE】						
5	注意の評価①【TMT】						
6	注意の評価②【CAT】						
7	注意の評価③【CAT】						
8	言語の評価【SLTA】【WAB失語症検査】						
9	記憶の評価【RBMT、三宅式記銘力テスト】						
10	記憶の評価【レイの複雑図形、ベネトン視覚記銘検査】						
11	記憶の評価【WMS-R】						
12	知能の検査【WAIS】						
13	知能の検査【コース立方体組み合わせテスト】						
14	視知覚、視覚認知、空間認知評価【BIT】						
15	視知覚、視覚認知、空間認知評価【BIT・VPTA】						
16	失行検査【SPTA】						
17	遂行機能検査【FAB】						
18	遂行機能検査【BADS】						
19	遂行機能検査【BADS】						
20	遂行機能検査【WCST】						
21	高齢期機能評価法①						
22	高齢期機能評価法②						
23	高齢期機能評価法③						
履修者へのコメント ※10.5時間以上の自己学習を要する。 内容・実施する検査の順番などに関しては、進捗により変更することもあります。							
テキスト 標準作業療法学 作業療法評価学 第4版（医学書院）							
参考書 指定なし、適宜紹介する。							

I. 基礎分野 i) 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	III 専門分野
II. 専門基礎分野 i) 人体の構造と機能及び心身の発達 ii) 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 iii) 保健医療福祉とリハビリテーションの理念 III. 専門分野 i) 基礎作業療法学 ii) 作業療法管理学 iii) 作業療法評価学 iv) 作業療法治療学 v) 地域作業療法学 vi) 臨床実習 IV. 選択必修専門分野 i) 作業療法治療学特論	作業療法治療学
	19単位

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
義肢装具学		講義	前期	OT2年	2単位	30時間	大場耕一
教 育 目 標	【一般目標】 1. 手の外傷等に関連する義肢・装具（スプリント）の基礎を理解する。 2. 実際の装具（スプリント）の製作課程を確認し、有用性や構造を理解する。 またこれらの装具などを必要とする対象者の障害を理解する。 【行動目標】講義全内容終了後には、学生は以下のことができるようになる。 1. 義肢・装具に関する適応の理解と有用性を説明できる。 2. 義肢装具士等との連携の必要性を理解する。 3. これらの知識に基づいて、臨床現場において治療応用できる。						
成 績 評 価 方 法	定期試験、提出物（制作したスプリント等）、受講状況等により総合的に判定する。						
回	内 容						担当者
1	オリエンテーション、手の外傷後の評価について						大場耕一
2	装具療法と手の外科領域の疾患（1）概論						
3	装具療法と手の外科領域の疾患（2）拘縮						
4	装具療法と手の外科領域の疾患（3）骨折						
5	装具療法と手の外科領域の疾患（4）末梢神経損傷						
6	装具療法と手の外科領域の疾患（5）腱損傷						
7	スプリントの実際（1） 装具の分類						
8	スプリントの実際（2） 疾患別スプリント						
9	スプリント製作の実際（1）カックアップスプリント：演習						
10	スプリント製作の実際（2）サムスパイカスプリント：演習						
11	スプリントの実際（3）適応と目的：演習						
12	義肢について（1）：演習						
13	義肢について（2）：演習						
14	講義全体の総括（1）						
15	講義全体の総括（2）および試験対策						
履修者へのコメント ※67.5時間以上の自己学習を要する。 講義、もしくは演習の進捗に応じて、変更点などは適宜、講義中に説明します。 単に知識を増やす事だけではなく、製作の意図・意味合いをイメージしてください。							
テキスト 「手のスプリントのすべて 第4版」 矢崎 潔 著 （三輪書店）							
参考書 「作業療法技術学9 義肢装具学」 古川 宏 編 （協同医書出版社）							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
日常生活動作援助論		講義	前期	OT2年	2単位	30時間	中山奈保子
教 育 目 標	【一般目標】 ADLの概念および生活機能との関連を把握し代表的な評価・介入の原則(ポイント)を理解する。 【行動目標】 ①ADL評価・支援に関連する基本用語を理解・説明できる。 ②ADL各項目の特徴を説明できる。 ③ADL各項目の一般的な構成要素(工程)を記述できる。 ④ADL各項目の一般的な構成要素(工程)ごとに、関連する主要な心身機能、環境を列挙できる。 ⑤ADL各項目の評価ポイントを説明できる。 ⑥ADL各項目の介入ポイント(注意点)を説明できる。 ⑦客観的ADL評価指標を列挙し、その活用方法を説明できる。						
	成績評価方法 講義中に提出する課題および学習者の行動目標達成度を評価するルーブリック(基準表)を用い判定する。						
回	内 容						担当者
1	Introduction / 基本用語とADLの定義・ADLの領域						中山奈保子
2	できるADL・しているADL						
3	ADLの評価に必要な知識② 一般的な作業療法のながれ(評価)						
4	ADLの評価に必要な知識③ 一般的な作業療法のながれ(介入の原則)						
5	ADLの評価に必要な知識④ 動作の観察と記録						
6	ADLの評価に必要な知識⑤ 動作の分析と記録						
7	食事動作の特徴と評価のポイント・介入原則と支援の実際①						
8	食事動作の特徴と評価のポイント・介入原則と支援の実際②						
9	排泄動作の特徴と評価のポイント・介入原則と支援の実際①						
10	排泄動作の特徴と評価のポイント・介入原則と支援の実際②						
11	更衣動作の特徴と評価のポイント・介入原則と支援の実際①						
12	更衣動作の特徴と評価のポイント・介入原則と支援の実際②						
13	入浴動作の特徴と評価のポイント・介入原則と支援の実際①						
14	入浴動作の特徴と評価のポイント・介入原則と支援の実際②						
15	身辺処理動作・屋外活動の特徴と評価のポイント 介入原則と支援						
履修者へのコメント ※67.5時間以上の自己学習を要する。 ・臨床実習において意欲的・能動的に学ぶための準備として課題に取り組むこと。 ・やむを得ず講義を欠席する場合は、事前にクラス担任または担当講師へ申し出るか、講義後すみやかにクラス担任へ相談すること。							
テキスト 指定しない(必要に応じ講義資料として配信する)							
参考書 必要に応じ講義資料として配信する。							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
日常生活動作援助論演習		演習	前期	OT2年	1単位	45時間	中山奈保子
教 育 目 標	【一般目標】 作業療法の対象となる主な疾患・障害を呈した人々の日常と生活機能（：心身機能・活動・参加）の特性を把握し、生活機能向上にむけた一般的なリハビリテーション・作業療法過程を理解する。 【行動目標】 ①作業療法の対象となる疾患・障害を呈した人々が直面するADL課題を列挙できる。 ②作業療法の対象となる疾患・障害を呈した人々の病期・回復段階に応じた介入原則を列挙できる。 ③生活機能向上を目的とした作業療法事例を多角的な視点で読み取り、OTRの臨床思考過程を記述できる。 ④生活機能向上を目的とした事例を多角的な視点で読み取り、OTRの臨床思考過程を説明できる。						
成績 評価 方法	講義中に提出する課題および学習者の行動目標達成度を評価するルーブリック（基準表）を用い判定する。						
回	内 容						担当者
1	ADLの評価に必要な知識① 運動・動作・活動・行為						中山奈保子
2	ICFと日常生活活動（事例）						
3	脳血管障害障害後（片麻痺）の日常と生活機能①						
4	脳血管障害障害後（片麻痺）の日常と生活機能②						
5	脳血管障害障害後（片麻痺）の日常と生活機能③						
6	脳血管障害障害後（片麻痺）の日常と生活機能④						
7	脳血管障害障害後（片麻痺）の日常と生活機能⑤						
8	脳血管障害障害後（片麻痺）の日常と生活機能⑥						
9	パーキンソン病罹患後の日常と生活機能①						
10	パーキンソン病罹患後の日常と生活機能②						
11	パーキンソン病罹患後の日常と生活機能③						
12	パーキンソン病罹患後の日常と生活機能④						
13	脊髄損傷後の日常と生活機能①						
14	脊髄損傷後の日常と生活機能②						
15	高齢者の廃用症候群・骨折後の日常と生活機能						
16	認知症高齢者の日常と生活機能①						
17	認知症高齢者の日常と生活機能②						
18	発達障害児の保育と生活機能						
19	学業活動の特徴と評価のポイント・介入原則と支援の実際						
20	客観的評価指標のまとめ：評価の実際（BI・FIMを中心に）①						
21	客観的評価指標のまとめ：評価の実際（BI・FIMを中心に）②						
22	客観的評価指標のまとめ：評価の実際（BI・FIMを中心に）③						
23	総括						
履修者へのコメント ※10.5時間以上の自己学習を要する。 ・臨床実習において意欲的・能動的に学ぶための準備として課題に取り組むこと。 ・やむを得ず講義を欠席する場合は、事前にクラス担任または担当講師へ申し出るか、講義後すみやかにクラス担任へ相談すること。							
テキスト 指定しない(必要に応じ講義資料として配信する)							
参考書 必要に応じ講義資料として配信する。							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
中枢神経疾患作業療法治療学Ⅰ		講義・演習	後期	OT2年	1単位	30時間	牧内亮
教 育 目 標	【一般目標】 1. 中枢神経疾患の身体障害領域の作業療法に必要な基礎知識や治療原理を理解できる。 2. 脳血管障害の病態・障害像を理解できる。 3. 脳血管障害の作業療法について、その目的と治療、指導、援助内容が理解できる。						
	【行動目標】 1. 中枢神経疾患の身体障害領域の作業療法に必要な基礎知識や治療原理を説明できる。 2. 脳血管障害の病態・障害像を説明できる。 3. 脳血管障害の作業療法について、その目的と治療、指導、援助内容が説明できる。						
成 績 評 価 方 法	定期試験にて判定する。						
回	内 容						担当者
1	オリエンテーション、脳血管疾患P176～（概要）						牧内亮
2	脳血管疾患P182～（作業療法評価）						
3	関節可動域の維持・拡大（分類・評価・治療手技・作業療法との関連）						
4	筋力と筋持久力の維持・増強（要因と原理・評価・治療手技・作業療法との関連）						
5	筋緊張異常とその治療（基礎知識・疾患・評価・治療手技・作業療法との関連）						
6	不随意運動とその治療（基礎知識・疾患・評価・治療・作業療法との関連）						
7	協調運動障害とその治療（基礎知識・評価・治療手技・作業療法との関連）						
8	感覚・知覚再教育（評価・目標・リハビリテーション）						
9	廃用症候群とその対応（廃用症候群をおこす状況・影響・対応・作業療法との関連）						
10	摂食・嚥下障害、喀痰吸引、物理療法（基礎知識・評価・治療手技）						
11	CVAにおける作業療法実践（急性期）						
12	CVAにおける作業療法実践（回復期）						
13	CVAにおける作業療法実践（維持期）						
14	CVA患者に対する環境調整（自助具、住環境整備、家族指導）						
15	総論・まとめ						
履修者へのコメント ※22.5時間以上の自己学習を要する。 ・講義形式で進めるが、実技を実施する場合があるため、動きやすい服装であることが望ましい。 ・理解度・習熟度などの進行状況により、一部内容が変更する場合がある。							
テキスト 標準作業療法学 身体機能作業療法学 第4版（医学書院）							
参考書 必要に応じて紹介していく。							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
中枢神経疾患作業療法治療学Ⅱ		講義・演習	後期	OT2年	1単位	30時間	牧内亮
教 育 目 標	【一般目標】 中枢神経疾患の作業療法について学ぶ。 【行動目標】 1. 疾患の概要、有病率、男女比、原因などを説明できる。 2. 疾患の分類、検査、評価について説明できる。 3. 疾患の代表的な治療について説明できる。 4. 疾患の作業療法について説明できる。						
成 績 評 価 方 法	提出物、定期試験で総合的に判定する。						
回	内 容						担当者
1	オリエンテーション						牧内亮
2	脳血管障害の作業療法						
3	頭部外傷の作業療法						
4	脊髄損傷の作業療法①						
5	脊髄損傷の作業療法②						
6	脊髄損傷の作業療法③						
7	パーキンソン病の作業療法①						
8	パーキンソン病の作業療法②						
9	脊髄小脳変性症の作業療法①						
10	脊髄小脳変性症の作業療法②						
11	筋萎縮性側索硬化症の作業療法						
12	多発性硬化症の作業療法						
13	重症筋無力症の作業療法						
14	ギランバレー症候群の作業療法						
15	総括						
履修者へのコメント ※22.5時間以上の自己学習を要する。 座学・実技及び、演習形式で行います。進捗によって変更の可能性もあります。							
テキスト 標準作業療法学 身体機能作業療法学 第4版（医学書院）							
参考書 指定なし。適宜紹介する。							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
身体機能障害作業療法治療学演習		演習	後期	OT2年	1単位	45時間	正村好臣
教 育 目 標	【一般目標】 臨床現場で必要とされる作業療法の技術、知識習得を目指し、教員が対象者に実施する。 作業療法を見学、模倣し理解することができる。						
	【行動目標】 教員が実施する作業療法を見学または模倣し、その内容を記録・報告できる。						
成績 評価 方法	・実技テスト実施。 ・検査課題提出。 ・上記の課題により総合的に評価する。						
回	内 容						担当者
1	オリエンテーション、SOAPで実際に記載						正村好臣
2	バイタル測定(血圧、SpO2)、脈の触知						
3	基本動作（寝返り、起き上がり、立ち上がり、移乗）						
4	基本動作（寝返り、起き上がり、立ち上がり、移乗）						
5	Brs、STEFを実施し記載						
6	Brs、STEFを実施し記載						
7	表在感覚、深部感覚、複合感覚を測定し記載						
8	表在感覚、深部感覚、複合感覚を測定し記載						
9	肩関節・肘関節のROM、MMTを測定し記載						
10	肩関節・肘関節のROM、MMTを測定し記載						
11	前腕・肩甲帯のROM、MMTを測定し記載						
12	前腕・肩甲帯のROM、MMTを測定し記載						
13	手関節・手指のROM、MMTを測定し記載						
14	手関節・手指のROM、MMTを測定し記載						
15	頸部・体幹のROM、MMTを測定し記載						
16	頸部・体幹のROM、MMTを測定し記載						
17	股関節のROM、MMTを測定し記載						
18	股関節のROM、MMTを測定し記載						
19	膝関節・足関節のROM、MMTを測定し記載						
20	膝関節・足関節のROM、MMTを測定し記載						
21	ROM・MMT・感覚検査・Brs測定						
22	ROM・MMT・感覚検査・Brs測定						
23	ROM・MMT・感覚検査・Brs測定						
履修者へのコメント ※10.5時間以上の自己学習を要する。 ・実技が多いため動きやすい服装で参加すること（学院指定KC着用）・身だしなみ：当学院臨床実習の手引き参照・授業の進行状況により変更有り・グループワーク有り・臨床実習の手引きに記載される一般的心得に順じた態度で授業に臨むこと							
テキスト ・標準作業療法学 身体機能作業療法学 第4版（医学書院） ・標準作業療法学 作業療法評価学 第4版（医学書院） ・新・徒手筋力検査法 原著第10版（協同医書出版）							
参考書 MMTナビ 臨床で役立つ徒手筋力検査法（ラウンドフラット） ROMナビ 動画で学ぶ関節可動域測定法 増補改定第3版（ラウンドフラット）							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
運動器疾患作業療法治療学		講義	後期	OT2年	2単位	30時間	柘植哲洋
教 育 目 標	【一般目標】 1. 整形外科領域の様々な疾患・障害についての正しい知識を学習する。 2. 画像診断に関する予備的知識や物理療法に関する知識を習得する。 3. 運動器疾患に対する評価、評価の統合と解釈の経験を積むことで、臨床における適切なリスク管理や適切な治療手段、運動療法や作業療法を選択する能力を身につける。 【行動目標】 1. 各運動器疾患の一般的な病態について学び、分からない点は自ら調べたり、他者に質問したりすることで理解し、説明することができる。 2. 正常なレントゲンやMRI、CT等と、骨折や腱断裂を呈したそれら画像との違いを理解し、指摘することができる。物理療法の種類と特徴、適応について理解し、述べるができる。 3. 疾患・部位・時期を考慮して評価すべき項目や治療方法を挙げることができる。評価時・治療時の禁忌肢位やストレスのかかる（動かしてはいけない）運動方向を述べるができる。						
	成績評価方法 定期試験、提出物等で総合的に判定する。						
回	内 容						担当者
1	総論（骨折/脱臼/腱損傷/靱帯損傷/神経損傷/切断etc）						柘植哲洋
2	頸髄損傷の評価・治療 / 末梢神経損傷の評価・治療						
3	肩関節・上腕の疾患への対応 ①講義・ケーススタディ						
4	肩関節・上腕の疾患への対応 ②講義・ケーススタディ						
5	肘関節・前腕の疾患への対応 ①講義・ケーススタディ						
6	肘関節・前腕の疾患への対応 ②講義・ケーススタディ						
7	手関節・手指の疾患への対応 ①講義・ケーススタディ						
8	手関節・手指の疾患への対応 ②講義・ケーススタディ						
9	手関節・手指の疾患への対応 ③講義・実技・ケーススタディ						
10	手関節・手指の疾患への対応 ④講義・実技・ケーススタディ						
11	リウマチのリハビリテーション 講義中心						
12	大腿骨頸部骨折術後のリハビリテーション 講義中心						
13	脊椎疾患のリハビリテーション 講義中心						
14	物理療法、スプリント療法、評価方法について、スポーツ整形疾患の運動療法 等						
15	その他のケーススタディ（MTDLPの利用など）、骨粗鬆症、ロコモについて 等						
履修者へのコメント ※67.5時間以上の自己学習を要する。 ・解剖学、運動学、生理学の知識が重要です。苦手な学生は予習・復習を行うこと。参考資料を参照してください。必要に応じて、実技演習できる服装での参加を依頼します。 講義ペース、順番について変更する場合があります。							
テキスト ・リハ実践テクニック ハンドセラピー（メジカルビュー社）							
参考書 ・グラント解剖学図譜（医学書院）あるいは、プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系（医学書院）、カパンディ関節の生理学、運動学の教科書などもお勧めします。 ・上肢運動器疾患の画像リハビリテーション 評価・戦略・アプローチのすべて（ヒューマンプレス）							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
内部疾患作業療法治療学		講義	後期	OT2年	2単位	30時間	柘植哲洋
教 育 目 標	【一般目標】 1. 様々な内部疾患・内部障害等についての正しい知識を学習する。 2. 画像診断や血液データ分析等に関する基礎的知識を習得する。 3. 内部疾患等に対する評価方法、リスク管理、適切な治療手段を学び、内部障害等の作業療法の役割を理解できる。						
	【行動目標】 1. 各内部疾患等の一般的な病態について学び、分からない点は自ら調べたり、他者に質問したりすることで理解し、説明することができる。 2. . 正常なレントゲンやMRI、CT等画像との違いを理解し、指摘することができる。血液データの項目とそれが意味するものについて述べるができる。 3. 疾患・部位・時期を考慮して評価すべき項目や治療方法等を挙げることができる。評価時・治療時のリスク管理について述べるができる。						
成績 評価 方法	定期試験（小テストの場合あり）、実技の習得状況、講義の出席状況・態度等により総合的に判定する。						
回	内 容						担当者
1	内部疾患の作業療法におけるリスク管理、廃用症候群について						柘植哲洋
2	廃用症候群について①サルコペニア、骨粗鬆症、ロコモ						
3	廃用症候群について②摂食・嚥下、誤嚥性肺炎について、その他						
4	がんのリハビリテーション① 病態，治療について						
5	がんのリハビリテーション② リハビリ，緩和ケアについて						
6	がんのリハビリテーション③ コミュニケーションスキル						
7	呼吸器疾患のリハビリテーション①						
8	呼吸器疾患のリハビリテーション②						
9	在宅酸素療法について， 評価実習前準備（評価方法、FMAについてなど）						
10	神経・筋疾患のリハビリテーション①						
11	神経・筋疾患のリハビリテーション②						
12	生活習慣病のリハビリテーション（腎不全・糖尿病を中心に）						
13	循環器疾患のリハビリテーション①						
14	循環器疾患のリハビリテーション②						
15	リウマチ以外の膠原病について、熱傷のリハビリテーション等 まとめ						
履修者へのコメント ※67.5時間以上の自己学習を要する。							
テキスト PT・OTビジュアルテキスト 身体障害作業療法学2 内部疾患編 小林隆司/編（羊土社）							
参考書 ・ 内部障害のリハビリテーション医学・医療テキスト 久保俊一 他/編（医学書院） ・ 作業療法テキスト内部障害作業療法学 呼吸・循環・代謝（15レクチャー）（中山書店）							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
精神疾患作業療法治療学Ⅰ		講義・演習	後期	OT2年	1単位	30時間	関美行
教 育 目 標	【一般目標】 1. 精神疾患に対する作業療法の治療理論を理解し、各疾患に対する作業療法の治療・援助方法について習得する。 2. 対象者の生活を理解し、対象者の立場に立って治療・援助方法を立案できるようになる。 3. 精神障害者が利用できる社会資源を理解する。 【行動目標】 精神障害治療学を積極的に学ぼうとする姿勢を示すこと。						
成績評価方法	提出物、定期試験で総合的に評価する。						
回	内 容						担当者
1	入院治療について、作業を用いる療法の特性①						関美行
2	作業を用いる療法の特性②						
3	精神科領域における治療・療法(グループワーク)						
4	精神科領域における治療・療法(発表)						
5	SST実技①						
6	SST実技②						
7	作業療法の治療・支援構造と治療機序(作業)						
8	作業療法の治療・支援構造と治療機序(作業療法士～自己の治療的利用)						
9	作業療法の治療・支援構造と治療機序(場所と場)、うつ病の精神医学						
10	うつ病の作業療法、うつ病体験談動画視聴						
11	統合失調症の精神医学						
12	統合失調症の作業療法						
13	てんかんの精神医学と作業療法						
14	パーソナリティ障害、神経症の精神医学と作業療法						
15	事例検討、試験対策						
履修者へのコメント ※22.5時間以上の自己学習を要する。 講義の進捗状況により、一部内容変更の可能性あります。							
テキスト 精神障害と作業療法【新版】 病いを生きる、病いと生きる 精神認知系作業療法の理論と実践 (三輪書店)							
参考書							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
精神疾患作業療法治療学Ⅱ		講義・演習	後期	OT2年	1単位	30時間	南田昌子
教 育 目 標	【一般目標】 1. 高次脳機能障害に対する作業療法の治療理論を理解する。 2. 高次脳機能障害を有する対象者に対し作業療法の治療・援助方法について考えることができる。 【行動目標】 前期の高次脳機能の広義にて学んだことを活かし、様々な治療を積極的に考えようという姿勢を示すこと。						
成 績 評 価 方 法	定期試験にて判定する。						
回	内 容						担当者
1	オリエンテーション、授業に必要な知識の復習						南田昌子
2	注意障害に対する作業療法①						
3	注意障害に対する作業療法②						
4	記憶障害に対する作業療法①						
5	記憶障害に対する作業療法②						
6	失語症に対する作業療法						
7	遂行機能障害に対する作業療法①						
8	遂行機能障害に対する作業療法②						
9	半側空間無視に対する作業療法①						
10	半側空間無視に対する作業療法②						
11	視覚失認に対する作業療法						
12	認知症に対する作業療法①						
13	認知症に対する作業療法②						
14	社会的行動障害に対する作業療法						
15	総括						
履修者へのコメント ※22.5時間以上の自己学習を要する。 授業の理解度・進行状況により、授業内容を変更する必要があるため、注意すること。							
テキスト 標準作業療法学 高次脳機能作業療法学 第3版（医学書院）							
参考書							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
精神疾患作業療法治療学演習		演習	後期	OT2年	1単位	45時間	南田昌子
教 育 目 標	【一般目標】 作業療法の目的・意義を理解し、実践、記録、報告することができる。 【行動目標】 1. 各疾患の作業療法を実演することができる。 2. 各疾患の作業療法を記録、報告することができる。						
成 績 評 価 方 法	提出物で総合的に判定する。						
回	内 容						担当者
1	オリエンテーション						南田昌子
2	注意機能障害に対する作業療法①						
3	注意機能障害に対する作業療法②						
4	失行に対する作業療法①						
5	失行に対する作業療法②						
6	半側空間無視に対する作業療法①						
7	半側空間無視に対する作業療法②						
8	視覚失認に対する作業療法						
9	記憶障害に対する作業療法①						
10	記憶障害に対する作業療法②						
11	失語症に対する作業療法士の関わり①						
12	失語症に対する作業療法士の関わり②						
13	認知症に対する作業療法士の関わり						
14	認知症に対する作業療法①						
15	認知症に対する作業療法②						
16	遂行機能障害に対する作業療法						
17	社会的行動障害に対する作業療法①						
18	社会的行動障害に対する作業療法②						
19	ICF①						
20	ICF②						
21	事例検討①						
22	事例検討②						
23	事例検討③						
履修者へのコメント ※10.5時間以上の自己学習を要する。 授業の理解度・進行状況により、授業内容を変更する場合があるため、注意すること。							
テキスト 指定なし、適宜紹介する。							
参考書 指定なし、適宜紹介する。							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
発達障害作業療法治療学		講義	後期	OT2年	2単位	30時間	小林良
教 育 目 標	【一般目標】 発達障害領域における評価と治療について、基本的な知識・技術を習得する。						
成 績 評 価 方 法	定期試験、提出物により総合的に判定する						
回	内 容						担当者
1	オリエンテーション						小林良
2	遊び、食事、排泄、更衣・整容の発達						
3	身体機能・構造と原始反射、姿勢反射の発達						
4	感覚統合の発達						
5	粗大運動の発達						
6	微細運動の発達						
7	Piagetの発達理論						
8	情緒・社会性・言語の発達						
9	摂食・嚥下の発達						
10	子どもの作業療法の主な疾患（脳性麻痺、知的能力障害、重症心身障害児）						
11	子どもの作業療法の主な疾患 （神経発達症群／神経発達障害群、頭部外傷等に伴う高次脳機能障害、筋ジストロフィー）						
12	保護者支援						
13	ケーススタディ①						
14	ケーススタディ②						
15	地域における支援						
履修者へのコメント ※67.5時間以上の自己学習を要する。 講義や演習を通して、臨床に出たときに役立つ内容をできる限りお伝えしたいと思います。							
テキスト 作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 発達障害作業療法学 第3版（メジカルビュー社）							
参考書 発達OTが考える子どもセラピーの思考プロセス（メジカルビュー社） 発達障害の作業療法 実践編 第3版 （三輪書店）							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
老年期作業療法治療学		講義・演習	前期	OT2年	1単位	30時間	南田昌子
教 育 目 標	【一般目標】 1. 高齢者のこれまで歩んできた生活を知る。 2. 老年期に起こりやすい疾患および合併症についての基礎知識を身に付ける。 3. 高齢者をとりまく環境、制度を踏まえた作業療法介入のための知識を深める。						
	【行動目標】 1. 高齢者がこれまで送ってきた生活を理解・説明できる。 2. 高齢者に起こりやすい疾患および合併症について説明できる。 3. 高齢者の心身の変化を理解し、適切な対応ができる。						
成績評価方法	定期試験により判定する。						
回	内 容						担当者
1	高齢期作業療法学の基礎①（高齢期の課題・社会制度・高齢期の作業療法）						南田昌子
2	高齢期作業療法学の基礎②（高齢期の課題・社会制度・高齢期の作業療法）						
3	高齢期の一般的特徴、介護予防の作業療法						
4	認知症（定義・分類と原因・症状・代表疾患・作業療法）						
5	認知症（定義・分類と原因・症状・代表疾患・作業療法）						
6	高齢者に多い疾患（循環器疾患）						
7	高齢者に多い疾患（呼吸器疾患）						
8	高齢者に多い疾患（神経疾患）						
9	高齢者に多い疾患（運動器（骨・骨格筋）疾患）						
10	高齢者に多い疾患（内分泌代謝疾患）						
11	高齢者に多い疾患（精神疾患）						
12	高齢期作業療法の実践過程						
13	病気に応じた治療・援助内容の違い						
14	実施場所に応じた治療・援助内容の違い						
15	総括						
履修者へのコメント ※22.5時間以上の自己学習を要する。 現在、日本は超高齢社会を迎えており、今後はより高齢者に向けてのリハビリの比重が増えることが予測されます。作業療法士は、生活の支援を行う職業であることから、高齢者の生活をより楽しく、充実したものとするための援助ができるように専門的な知識と一緒に学んでいきましょう！※授業の理解度・進行状況により、授業内容を変更する場合もある。							
テキスト 標準作業療法学 高齢期作業療法学 第4版（医学書院）							
参考書 随時、必要に応じて紹介する。							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
老年期作業療法治療学演習		演習	後期	OT2年	1単位	45時間	正村好臣
教 育 目 標	【一般目標】 高齢者の身体、心理、社会的特性、社会背景を把握し、高齢者の作業療法目的・介入の諸原則を理解する。						
	【行動目標】 1. 高齢者および高齢者の生活を支える介護者を取り巻く社会的問題を説明できる。 2. 高齢者の身体・精神・心理的特徴を列挙できる。 3. 高齢者に生じやすい症候・疾病とその原因（背景）を説明できる。 4. 高齢者の健康状態（身体・精神・心理）および日常生活を客観的に理解する方法・手段を説明できる。 5. 高齢者に対する作業療法事例を読み解き、作業療法の目的、介入の諸原則を説明できる。 6. 主要な作業療法実践モデルに基づき、高齢者を対象とした作業療法の評価・介入プログラムを立案できる。						
成績 評価 方法	講義中小テストおよび学習者の行動目標達成度を評価するルーブリック（基準表）を用い判定する。						
回	内 容						担当者
1	高齢者および介護者を取り巻く社会的問題						正村好臣
2	高齢者及び介護者をとりまく社会的問題discussion						
3	高齢者の身体・精神・心理的特徴とその理解						
4	高齢者の身体・精神・心理的特徴とその理解discussion						
5	老年症候群：日常生活に及ぼす影響						
6	老年症候群：日常生活に及ぼす影響discussion						
7	フレイル（虚弱高齢者）・サルコペニア・生活不活発病						
8	フレイル（虚弱高齢者）・サルコペニア・生活不活発病discussion						
9	認知症とその理解：認知症前段階と認知症の見極め、評価・介入の原則						
10	認知症とその理解：認知症前段階と認知症の見極め、評価・介入の原則discussion						
11	事例検討①作業療法プログラム立案：MTDLP						
12	事例検討①作業療法プログラム立案：MTDLP						
13	事例検討②作業療法プログラム立案：MTDLP						
14	事例検討②作業療法プログラム立案：MTDLP						
15	事例検討③作業療法プログラム立案：MTDLP						
16	事例検討③作業療法プログラム立案：MTDLP						
17	事例検討④作業療法プログラム立案：CMOP						
18	事例検討④作業療法プログラム立案：CMOP						
19	事例検討⑤作業療法プログラム立案：MOHO						
20	事例検討⑤作業療法プログラム立案：MOHO						
21	事例検討⑥作業療法プログラム立案						
22	事例検討⑥作業療法プログラム立案						
23	総括：discussion						
履修者へのコメント ※10.5時間以上の自己学習を要する。 講義では、学習の理解を深める為、適宜小テストを実施する。やむを得ず講義を欠席する場合は、事前に担当講師へ申し出るか、講義後すみやかにクラス担任へ相談すること。							
テキスト 標準作業療法学 高齢期作業療法学 第4版（医学書院）							
参考書 随時、必要に応じて紹介する							

I. 基礎分野 i) 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	III 専門分野
II. 専門基礎分野 i) 人体の構造と機能及び心身の発達 ii) 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 iii) 保健医療福祉とリハビリテーションの理念 III. 専門分野 i) 基礎作業療法学 ii) 作業療法管理学 iii) 作業療法評価学 iv) 作業療法治療学 v) 地域作業療法学 vi) 臨床実習 IV. 選択必修専門分野 i) 作業療法治療学特論	地域作業療法学
	4単位

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
生活環境論		講義	前期	OT2年	2単位	30時間	柘植哲洋
教 育 目 標	【一般目標】 1. 豊かな生活を営むための代償的な資源（福祉機器等）について理解できる。 2. 住環境に対するアプローチ方法を学び、住宅改修の提案をするために必要な知識を習得する。 3. 医療や介護の分野における様々な社会制度について理解することができる。						
	【行動目標】 1. 自助具・福祉機器等の種類や特徴、用途等を自ら調べ、述べることができる。 2. クライアントのニーズに合わせた住宅改修や社会資源の利用ができるように、教科書や資料等を自ら情報収集し、提案することができる。 3. 各制度の特徴や違いを述べることができる。また、医療保険・介護保険それぞれで利用可能なサービス等について把握し、特徴を説明できる。						
成績評価方法	定期試験、グループワークでのプレゼン内容、実技での技能獲得状況により総合的に判断する。						
回	内 容						担当者
1	生活環境学の概論。住宅環境とは？、情報収集・評価(面接含む)のスキル・他職種連携						柘植哲洋
2	福祉機器（電動ベッドなど）、住宅改修：手すり、段差解消、転倒予防						
3	制度の理解：介護保険制度、障害者総合支援法、補装具費支給制度						
4	生活構造・地域環境・住環境に対する評価、家屋評価のポイント						
5	家屋評価・住宅改修のポイント、間取り図の描き方について①						
6	間取り図の描き方について②、住宅改修案について						
7	住宅改修案：グループワーク課題の提示、ディスカッション						
8	住宅改修案：グループワーク課題の発表						
9	疾患別住環境整備の考え方						
10	福祉住環境整備の基本的なポイント、部屋別・場所別のポイント						
11	福祉用具・ADLで用いる自助具について・自助具作製						
12	疾患別の福祉用具導入例（CVA, RAなど）等						
13	ポジショニングについて						
14	シーティングについて（車いすの選定・調整）						
15	杖・歩行器の選定・調整、災害リハビリテーションについて、総括						
履修者へのコメント ※67.5時間以上の自己学習を要する。 授業形式は講義・グループワーク・実技とする。その都度適した形式にて授業を進める。							
テキスト 標準作業療法学 地域作業療法学 第4版（医学書院） その他、適宜配布資料あり。							
参考書 標準作業療法学 日常生活活動・社会生活行為学（医学書院）の一部も参考にする予定です。							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
地域作業療法学		講義	後期	OT2年	2単位	30時間	大里園絵
教 育 目 標	【一般目標】 地域社会の現状と共生社会に向けた歩みと作業療法士の役割を理解する。						
	【行動目標】 1. 地域リハビリテーションおよび作業療法の概念、目的について説明できる。 2. 地域作業療法を支える制度について説明できる。 3. 実践の場に応じた作業療法について説明できる。 4. 地域課題の解決と共生社会に向けた作業療法の展開を考察できる。						
成績評価方法	定期試験、課題により総合的に評価する。						
回	内 容						担当者
1	地域作業療法の概念						大里園絵
2	地域包括ケアシステム						
3	地域作業療法を支える制度						
4	ICF・生活機能						
5	MTDLP 生活行為向上マネジメント						
6	在宅サービス						
7	通所サービス						
8	認知症支援						
9	精神障害						
10	発達支援						
11	介護予防						
12	多職種連携						
13	住宅改修と福祉用具						
14	地域課題への取り組み（災害時支援）						
15	まとめと総括						
履修者へのコメント ※67.5時間以上の自己学習を要する。 「地域作業療法学」は、とても幅広い領域のであるため、授業の中でポイント抑えて、理解を進めていけるとよいと思います。							
テキスト 必要に応じて資料を配布する							
参考書 標準作業療法学「地域作業療法学」第4版							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
地域作業療法学演習		演習	後期	OT2年	1単位	45時間	大里園絵
教 育 目 標	【一般目標】 地域における作業療法の理念と役割を理解し、生活課題を多面的に捉えて適切な支援を考察・実践できる基礎的能力を身につける。 【行動目標】 1. 地域作業療法の基本概念、対象、役割を説明できる。 2. 個人・家族・地域の視点から生活行為・社会参加・環境をアセスメントできる。 3. アセスメント結果に基づき、地域作業療法の介入計画を立案できる。 4. 多職種連携の意義を理解し、地域ケア会議等を想定した意見交換ができる。 5. 地域課題に基づく支援プロジェクトを企画し、グループで協働して発表できる。						
成 績 評 価 方 法	・提出物 ・グループワーク、発表の参加度 上記をもとに総合的に評価する。						
回	内 容						担当者
1	オリエンテーション・地域作業療法の全体像						大里園絵
2	障害を持つ人の「地域生活」について						
3	地域課題の探求①						
4	地域課題の探求②						
5	地域アセスメント（個人）						
6	地域アセスメント（地域・コミュニティ）						
7	ICFで事例検討						
8	MTDLP 生活行為向上マネジメント						
9	領域別事例検討 在宅						
10	領域別事例検討 通所						
11	領域別事例検討 認知症①						
12	領域別事例検討 認知症②						
13	領域別事例検討 精神障害						
14	領域別事例検討 発達支援						
15	介護予防について①						
16	介護予防について②						
17	地域でのグループアプローチ（多職種連携）①						
18	地域でのグループアプローチ（多職種連携）②						
19	環境調整（家屋評価、福祉用具）①						
20	環境調整（家屋評価、福祉用具）②						
21	地域プロジェクト企画①（グループワーク）						
22	地域プロジェクト企画②（発表準備）						
23	最終発表・まとめ						
履修者へのコメント ※10.5時間以上の自己学習を要する。 演習が中心の授業となるため、グループワーク、発表等、積極的に取り組むこと。							
テキスト 必要に応じて資料を配布する							
参考書 必要に応じて資料を配布する							

I. 基礎分野 i) 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	III 専門分野
II. 専門基礎分野 i) 人体の構造と機能及び心身の発達 ii) 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 iii) 保健医療福祉とリハビリテーションの理念 III. 専門分野 i) 基礎作業療法学 ii) 作業療法管理学 iii) 作業療法評価学 iv) 作業療法治療学 v) 地域作業療法学 vi) 臨床実習 IV. 選択必修専門分野 i) 作業療法治療学特論	臨床実習
	22単位

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
見学実習 I		実習	後期	OT1年	1単位	45時間	小島正義
教 育 目 標	【到達目標】 作業療法が実践されうる医療・保健・福祉・職業・教育などの領域について、その概要と背景を説明できる。						
	【行動目標】 1. 実習に相応しい服装や身なりを整えることができる 2. 実習に相応しい挨拶や自己紹介ができる 3. 実習施設および指導者の指示を遵守できる 4. 対象者、職員に対し礼節ある言葉遣いや態度をとることができる 5. 自発的に掃除、整理整頓することができる 6. 守秘義務、個人情報の取り扱いを厳守することができる						
成 績 評 価 方 法	実習地における目標達成度に対する実習生自己評価および担当教員による評価、学内における課題、プレゼンテーション、実技試験等をもって総合的に判定する。						
	内 容						担当者
	見学実習前ガイダンス／事前学習						小島正義
	見学実習 I						
	見学実習後ガイダンス						
履修者へのコメント ・配置や個々の実習日程に関してはガイダンスにて詳細を発表する。・実習は貴重な体験であるため積極的に学ぶ姿勢を持つとともに、あくまで学校外の施設をお借りして 実習させていただいているという立場を鑑みて、利用者様を第一に指導者の方、働いている方に迷惑をかけないよう細心の注意をはらうことを望みます。							
テキスト 実習前ガイダンスにおいて「実習の手引き」配布							
参考書 特になし							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
見学実習Ⅱ		実習	後期	OT1年	1単位	45時間	小島正義
教 育 目 標	作業療法実践を作業療法士の業務内容及び臨床技能を学び理解する。 作業療法士として自覚をもった行動をとることができるとし、臨床場面において見学した臨床技能の一部を臨床実習指導者のもと、実践できる。						
成 績 評 価 方 法	事前準備状況、実習施設における体験内容及び実習後の臨床技能の習得状況及び症例に関する事例検討により総合的に判定する。 （実習の手引き参照のこと）						
	内 容						担当者
	見学実習前ガイダンス						小島正義
	見学実習 Pre-OSCE						
	見学実習Ⅱ						
見学実習後ガイダンス							
見学実習 Post-OSCE							
履修者へのコメント ・配置や個々の実習日程に関してはガイダンスにて詳細を発表する。・実習は貴重な体験であるため積極的に学ぶ姿勢を持つとともに、あくまで学校外の施設をお借りして実習させていただいているという立場を鑑みて、利用者様を第一に指導者の方、働いている方に迷惑をかけないよう細心の注意をはらうことを望みます。							
テキスト 実習前ガイダンスにおいて「実習の手引き」配布							
参考書 特になし							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
評価実習 I		実習	後期	OT2年	3単位	135単位	牧内亮
教 育 目 標	一般的な特性を呈する事例に対して作業療法実践過程において、臨床実習指導者の指導のもとで基本的臨床技術・技能および臨床思考過程を学習し対象者の生活状態の把握について模倣実践できる。作業療法士として自覚をもった行動をとることができる。						
成 績 評 価 方 法	事前準備状況、実習施設における体験内容及び実習後の臨床技能の習得状況をOSCE試験に判定し、総合的に勘案する						
	内 容						担当者
	評価実習 I ・ II 実習指導者会議						牧内亮
	評価実習 I 前ガイダンス						
	評価実習 I ・ II Pre-OSCE						
	評価実習 I						
	評価実習 I 後ガイダンス						
	評価実習 I ・ II Post-OSCE						
	履修者へのコメント ・配置や個々の実習日程に関してはガイダンスにて詳細を発表する。・実習は貴重な体験であるため積極的に学ぶ姿勢を持つとともに、あくまで学校外の施設をお借りして実習させていただいているという立場を鑑みて、利用者様を第一に指導者の方、働いている方に迷惑をかけないよう細心の注意をはらうことを望みます。						
テキスト 実習前ガイダンスにおいて「実習の手引き」配布							
参考書 特になし							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
評価実習Ⅱ		実習	後期	OT2年	3単位	135単位	牧内亮
教 育 目 標	一般的な特性を呈する事例に対して作業療法実践過程において、臨床実習指導者の指導のもとで基本的臨床技術・技能および臨床思考過程を学習し対象者の生活状態の把握について模倣実践できる。作業療法士として自覚をもった行動をとることができる。						
成 績 評 価 方 法	事前準備状況、実習施設における体験内容及び実習後の臨床技能の習得状況をOSCE試験に判定し、総合的に勘案する						
	内 容						担当者
	評価実習Ⅰ・Ⅱ 実習指導者会議						牧内亮
	評価実習Ⅱ前ガイダンス						
	評価実習Ⅰ・Ⅱ Pre-OSCE						
	評価実習Ⅱ						
	評価実習Ⅰ後ガイダンス						
	評価実習Ⅰ・Ⅱ Post-OSCE						
履修者へのコメント ・配置や個々の実習日程に関してはガイダンスにて詳細を発表する。・実習は貴重な体験であるため積極的に学ぶ姿勢を持つとともに、あくまで学校外の施設をお借りして実習させていただいているという立場を鑑みて、利用者様を第一に指導者の方、働いている方に迷惑をかけないよう細心の注意をはらうことを望みます。							
テキスト 実習前ガイダンスにおいて「実習の手引き」配布							
参考書 特になし							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
総合臨床実習 I		実習	前期	OT3年	8単位	360時間	南田昌子
教 育 目 標	【一般目標】 医療・保健・福祉に関わる作業療法士としての態度を身につける。これまでに修得した知識・技術を臨床場面に応用し、対象者の問題を解決する基本的な知識・技術を向上させる。臨床実習指導者（SV）の指導の下に、評価の実施、治療計画の立案、治療の実施、検証までの基本的な作業療法を実施できるようになること。						
	【行動目標】 ①専門職として責任ある態度、行動をとることができる。 ②リハビリテーションにおけるチームワークの重要性を認識し、専門職としての人間性を養う。 ③臨床実習指導者（SV）の指導の下に作業療法評価を実施し、適切な治療計画を立案できる。基本的な作業療法を実践できることが望ましい。 ④守秘義務・個人情報の保護について理解・実施する。 ⑤学生としての必要な記録と報告ができる。						
成績評価方法	臨床実習指導者の評価とOSCE試験の結果を踏まえて総合的に判断する。						
	内 容						担当者
	総合臨床実習 I ・ II 指導者会議						南田昌子
	総合臨床実習 I 前ガイダンス						
	総合臨床実習 I ・ II Pre-OSCE						
	総合臨床実習 I						
	総合臨床実習 I 後ガイダンス						
	総合臨床実習 I ・ II Post-OSCE						
履修者へのコメント ・ 配置や個々の実習日程に関してはガイダンスにて詳細を発表する。 ・ 学外の施設において作業療法に関わる技法を学んでいく特性上、実習施設により進行と内容が変わります。作業療法士である実習指導者から積極的な姿勢で学んでいくことを望みます。							
テキスト 実習前ガイダンスにおいて「実習の手引き」配布							
参考書 特になし							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
総合臨床実習Ⅱ		実習	通年	OT3年	8単位	360時間	南田昌子
教 育 目 標	【一般目標】 医療・保健・福祉に関わる作業療法士としての態度を身につける。これまでに修得した知識・技術を臨床場面に応用し、対象者の問題を解決する基本的な知識・技術を向上させる。臨床実習指導者（SV）の指導の下に、評価の実施、治療計画の立案、治療の実施、検証までの基本的な作業療法を実施できるようになること。						
	【行動目標】 ①専門職として責任ある態度、行動をとることができる。 ②リハビリテーションにおけるチームワークの重要性を認識し、専門職としての人間性を養う。 ③臨床実習指導者（SV）の指導の下に作業療法評価を実施し、適切な治療計画を立案できる。基本的な作業療法を実践できることが望ましい。 ④守秘義務・個人情報の保護について理解・実施する。 ⑤学生としての必要な記録と報告ができる。						
成績評価方法	臨床実習指導者の評価とOSCE試験の結果を踏まえて総合的に判断する。						
	内 容						担当者
	総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ 指導者会議						南田昌子
	総合臨床実習Ⅰ前ガイダンス						
	総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ Pre-OSCE						
	総合臨床実習Ⅱ						
	総合臨床実習Ⅱ後ガイダンス						
	総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ Post-OSCE						
	履修者へのコメント						
・配置や個々の実習日程に関してはガイダンスにて詳細を発表する。 ・学外の施設において作業療法に関わる技法を学んでいく特性上、実習施設により進行と内容が変わります。作業療法士である実習指導者から積極的な姿勢で学んでいくことを望みます。							
テキスト 実習前ガイダンスにおいて「実習の手引き」配布							
参考書 特になし							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
地域実践実習		実習	後期	OT3年	1単位	45時間	南田昌子
教 育 目 標	【一般目標】 医療・保健・福祉に関わる作業療法士としての態度を身につける。これまでに修得した知識・技術を臨床場面に応用し、対象者の問題を解決する基本的な知識・技術を向上させる。臨床実習指導者（SV）の指導の下に、評価の実施、治療計画の立案、治療の実施、検証までの基本的な作業療法を実施できるようになること。						
	【行動目標】 ①専門職として責任ある態度、行動をとることができる。 ②リハビリテーションにおけるチームワークの重要性を認識し、専門職としての人間性を養う。 ③臨床実習指導者（SV）の指導の下に作業療法評価を実施し、適切な治療計画を立案できる。基本的な作業療法を実践できることが望ましい。 ④守秘義務・個人情報の保護について理解・実施する。 ⑤学生としての必要な記録と報告ができる。						
成績評価方法	臨床実習指導者の評価を基に学科教員が総合的に判断する						
	内 容						担当者
	地域実践実習前ガイダンス						南田昌子
	地域実践実習　Pre-OSCE						
	地域実践実習						
	地域実践実習　Post-OSCE						
	地域実践実習後ガイダンス						
履修者へのコメント ・配置や個々の実習日程に関してはガイダンスにて詳細を発表する。 ・学外の施設において作業療法に関わる技法を学んでいく特性上、実習施設により進行と内容が変わります。作業療法士である実習指導者から積極的な姿勢で学んでいくことを望みます。							
テキスト 実習前ガイダンスにおいて「実習の手引き」配布							
参考書 特になし							

I. 基礎分野 i) 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	IV 選択必修専門分野
II. 専門基礎分野 i) 人体の構造と機能及び心身の発達 ii) 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 iii) 保健医療福祉とリハビリテーションの理念 III. 専門分野 i) 基礎作業療法学 ii) 作業療法管理学 iii) 作業療法評価学 iv) 作業療法治療学 v) 地域作業療法学 vi) 臨床実習 IV. 選択必修専門分野 i) 作業療法治療学特論	作業療法治療学特論
	3単位

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
集团的作業療法特論		演習	前期	OT1年	1単位	45時間	小島正義 大里園絵
教 育 目 標	【一般目標】 作業療法士の特性を理解し、作業療法特有の集団を用いた治療を理解し立案することができる。 【行動目標】 1. 作業療法の特性を説明できる 2. 集団における治療特性を説明できる 3. 集团的作業療法を立案できる						
成 績 評 価 方 法	実習課題（実技・レポート）をもとに、総合的に勘案する						
回	内 容						担当者
1	オリエンテーション						小島正義 大里園絵
2	集団とは、個人とは／自己理解と他者理解／レクリエーション						
3	患者様の視点を知る／あいさつの練習（目線・表情・声量・身だしなみ）①						
4	患者様の視点を知る／あいさつの練習（目線・表情・声量・身だしなみ）②						
5	患者様の視点を知る／コミュニケーションの基本（演習）①						
6	患者様の視点を知る／コミュニケーションの基本（演習）②						
7	患者様の視点を知る／T字杖、松葉杖歩行体験と援助の基礎（演習）①						
8	患者様の視点を知る／T字杖、松葉杖歩行体験と援助の基礎（演習）②						
9	患者様の視点を知る／車椅子体験と援助の基礎（演習）①						
10	患者様の視点を知る／車椅子体験と援助の基礎（演習）②						
11	患者様の視点を知る／起き上がりと移乗（演習）①						
12	患者様の視点を知る／起き上がりと移乗（演習）②						
13	患者様の視点を知る／視覚障害体験①						
14	患者様の視点を知る／視覚障害体験②						
15	集团的な視点を知る／車椅子患者様へのレクリエーション立案①						
16	集团的な視点を知る／車椅子患者様へのレクリエーション立案②						
17	車椅子でのレクリエーション実施①						
18	車椅子でのレクリエーション実施②						
19	集团的な視点を知る／視覚障害患者様へのレクリエーション立案①						
20	集团的な視点を知る／視覚障害患者様へのレクリエーション立案②						
21	視覚障害患者様へのレクリエーション実施①						
22	視覚障害患者様へのレクリエーション実施②						
23	レクリエーションの振り返り／まとめ						
履修者へのコメント ※10.5時間以上の自己学習を要する。 演習・実技も行うため、動きやすい服装で臨んでください							
テキスト							
参考書							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
遊び・余暇活動特論		演習	前期	OT1年	1単位	45時間	小島正義
教 育 目 標	【一般目標】 「遊び（余暇活動）」が心身の健康や社会生活に及ぼす影響を体験的に理解する。 【行動目標】 1. 他学生を対象としたレクリエーションを企画、実施する。 2. 企画書、報告書を作成する。 3. 企画から実施までの一連の流れをレポートとしてまとめ、作業療法との関連性を考察する。						
成 績 評 価 方 法	グループワーク参加度、提出課題の内容をルーブリックを用い評価する。						
回	内 容						担当者
1	オリエンテーション 作業療法と遊び・余暇活動						小島正義
2	オリエンテーション 作業療法と遊び・余暇活動						
3	遊び・余暇活動と健康						
4	遊び・余暇活動と社会生活						
5	企画書の作成						
6	グループワーク（企画・準備）						
7	中間報告会						
8	グループ発表①						
9	グループ発表②						
10	グループ発表③						
11	グループ発表④						
12	グループ発表⑤						
13	遊びを用いた作業療法の実際						
14	遊びを用いた作業療法の実際						
15	合同発表会						
16	合同発表会						
17	合同発表会						
18	事例報告会・レポート指導						
19	事例報告会・レポート指導						
20	事例報告会・レポート指導						
21	文献抄読①						
22	文献抄読②						
23	作業療法と遊び・余暇活動 事例検討						
履修者へのコメント ※10.5時間以上の自己学習を要する。 ・上級生の指導を受ける機会となるため、態度等に留意し積極的にコミュニケーションを図ること。 ・小グループやペアによる実技形式ですすめていくので、動きやすい服装で臨むこと。							
テキスト 必要な場合に限り、プリントを配布する。							
参考書 特になし							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
ハンドセラピー特論		演習	前期	OT2年	1単位	45時間	牧内亮
教 育 目 標	【一般目標】 リハビリテーション医療におけるハンドセラピーの理論および実践方法を探求する。						
	【行動目標】 1. ハンドセラピーに関連する学術論文を検索・選定する。 2. 文献の背景・目的・方法・結果・考察の概要、論文に対する意見・考察をまとめ他学生に報告する。他学生の報告に対し、批判的な立場から意見を深め臨床での在り方を検討できる。						
成 績 評 価 方 法	学術論文抄読およびグループワークへの参加度をルーブリックを用い総合的に評価する。						
回	内 容						担当者
1	オリエンテーション						牧内亮
2	文献検索 概要作成						
3	プレゼンテーション技法①						
4	プレゼンテーション技法②						
5	ハンドセラピーに関する文献発表①						
6	ハンドセラピーに関する文献に対する討論①						
7	ハンドセラピーに関する文献発表②						
8	ハンドセラピーに関する文献に対する討論②						
9	ハンドセラピーに関する文献発表③						
10	ハンドセラピーに関する文献に対する討論③						
11	ハンドセラピーに関する文献発表④						
12	ハンドセラピーに関する文献に対する討論④						
13	ハンドセラピーに関する文献発表⑤						
14	ハンドセラピーに関する文献に対する討論⑤						
15	ハンドセラピーに関する文献発表⑥						
16	ハンドセラピーに関する文献に対する討論⑥						
17	ハンドセラピーに関する文献発表⑦						
18	ハンドセラピーに関する文献に対する討論⑦						
19	ハンドセラピーに関する文献発表⑧						
20	ハンドセラピーに関する文献に対する討論⑧						
21	各文献の比較検討① グループディスカッション						
22	各文献の比較検討② グループディスカッション						
23	まとめ						
履修者へのコメント ※10.5時間以上の自己学習を要する。 積極的な参加を望みます。							
テキスト 必要な場合に限り、プリントを配布する。							
参考書 適宜紹介する。							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
福祉機器特論		演習	前期	OT2年	1単位	45時間	牧内亮
教 育 目 標	【一般目標】 リハビリテーション医療における福祉機器の開発および臨床への応用を探究する。						
	【行動目標】 1. 福祉機器に関連する学術論文を検索・選定する。 2. 文献の背景・目的・方法・結果・考察の概要、論文に対する意見・考察をまとめ他学生に報告する。他学生の報告に対し、批判的な立場から意見を深め臨床での在り方を検討できる。						
成 績 評 価 方 法	学術論文抄読およびグループワークへの参加度をルーブリックを用い総合的に評価する。						
回	内 容						担当者
1	オリエンテーション、福祉機器とは何か						牧内亮
2	福祉機器の必要性の検討① グループディスカッション						
3	福祉機器の必要性の検討② グループディスカッション						
4	福祉機器の必要となる疾患の検討① グループディスカッション						
5	福祉機器の必要となる疾患の検討② グループディスカッション						
6	福祉機器の必要となる疾患の検討③ グループディスカッション						
7	福祉機器と環境設定① 住宅改修を通じて実地調査						
8	福祉機器と環境設定② 住宅改修を通じて実地調査						
9	福祉機器と環境設定③ 住宅改修を通じて実地調査						
10	福祉機器と環境設定④ 住宅改修を通じて実地調査						
11	福祉機器と環境設定⑤ 住宅改修を通じて実地調査						
12	福祉機器の実際① 文献抄読						
13	福祉機器の実際② 文献抄読						
14	福祉機器の実際③ 文献抄読						
15	福祉機器の実際④ 文献抄読						
16	福祉機器の作成①						
17	福祉機器の作成②						
18	福祉機器の作成③						
19	福祉機器の作成④						
20	グループ発表①						
21	グループ発表②						
22	グループ発表③						
23	総括						
履修者へのコメント ※10.5時間以上の自己学習を要する。 積極的な参加を望みます。							
テキスト 必要な場合に限り、プリントを配布する。							
参考書 適宜紹介する。							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
高次脳機能障害特論		演習	前期	OT2年	1単位	45時間	牧内亮
教 育 目 標	【一般目標】 高次脳機能障害の対象者理解を深め、作業療法の臨床への応用を探究する。 【行動目標】 1. 高次脳機能障害に関連する情報（文献等）を検索・選定する。 2. 高次脳機能障害に関連する情報（文献等）をまとめ他学生に報告する。 3. 他学生の報告に対し、批判的な立場から意見を深め臨床での在り方を検討できる。						
成 績 評 価 方 法	レポートおよびグループワークへの参加度をルーブリックを用い総合的に評価する。						
回	内 容						担当者
1	高次脳機能障害に関係する疾患理解 1						牧内亮
2	高次脳機能障害に関係する疾患理解 2						
3	プレゼンテーション資料の作成 1						
4	プレゼンテーション 1						
5	資料の修正と作成 1						
6	高次脳機能障害の機能障害理解 1						
7	高次脳機能障害の機能障害理解 2						
8	プレゼンテーション資料の作成 2						
9	プレゼンテーション 2						
10	資料の修正と作成 2						
11	高次脳機能障害の能力障害理解 1						
12	高次脳機能障害の能力障害理解 2						
13	プレゼンテーション資料の作成 3						
14	プレゼンテーション 3						
15	資料の修正と作成 3						
16	高次脳機能障害の社会参加障害の理解 1						
17	高次脳機能障害の社会参加障害の理解 2						
18	プレゼンテーション資料の作成 4						
19	プレゼンテーション 4						
20	資料の修正と作成 4						
21	高次脳機能障害と作業療法 1						
22	高次脳機能障害と作業療法 2						
23	高次脳機能障害と作業療法 3						
履修者へのコメント ※10.5時間以上の自己学習を要する。 積極的な参加を望みます。							
テキスト 必要な場合に限り、プリントを配布する。							
参考書 適宜紹介する。							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
臨床作業療法特論		演習	前期	OT2年	1単位	45時間	牧内亮
教 育 目 標	【一般目標】 臨床における作業療法士の役割を理解できる。 時に個別対応ではなく、集団力学を利用する作業療法の役割を理解できる。 【行動目標】 ・治療対象者の視点を理解できる。 ・作業療法の特性を説明できる。 ・臨床における個別・集団における作業療法の違いを説明できる。						
成 績 評 価 方 法	課題レポートをもとに、総合的に勘案する。						
回	内 容						担当者
1	オリエンテーション						牧内亮
2	集団とは、個人とは／自己理解と他者理解／レクリエーション						
3	患者様の視点を知る／あいさつの練習（目線・表情・声量・身だしなみ）①						
4	患者様の視点を知る／あいさつの練習（目線・表情・声量・身だしなみ）②						
5	患者様の視点を知る／コミュニケーションの基本（演習）①						
6	患者様の視点を知る／コミュニケーションの基本（演習）②						
7	患者様の視点を知る／T字杖、松葉杖歩行体験と援助の基礎（演習）①						
8	患者様の視点を知る／T字杖、松葉杖歩行体験と援助の基礎（演習）②						
9	患者様の視点を知る／車椅子体験と援助の基礎（演習）①						
10	患者様の視点を知る／車椅子体験と援助の基礎（演習）②						
11	患者様の視点を知る／起き上がりと移乗（演習）①						
12	患者様の視点を知る／起き上がりと移乗（演習）②						
13	患者様の視点を知る／視覚障害体験①						
14	患者様の視点を知る／視覚障害体験②						
15	車椅子でのレクリエーション実施①						
16	車椅子でのレクリエーション実施②						
17	視覚障害患者様へのレクリエーション実施①						
18	視覚障害患者様へのレクリエーション実施②						
19	様々な臨床現場における作業療法の実際①						
20	様々な臨床現場における作業療法の実際②						
21	様々な臨床現場における作業療法の実際③						
22	様々な臨床現場における作業療法の実際④						
23	まとめ						
履修者へのコメント ※10.5時間以上の自己学習を要する。 演習内で身体を動かす機会が多くあるため、動きやすい服装で臨むこと。							
テキスト 必要に応じて、プリントを配布する。							
参考書 適宜紹介する。							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
徒手療法特論		演習	前期	OT3年	1単位	45時間	高梨翼
教 育 目 標	【一般目標】 各種徒手療法の基本的概念や対象などの理解、対象者に対して安全に効果的に実施できるようになる。 【行動目標】 1. 各種徒手療法の基本的概念や対象を説明できる。 2. 安全に配慮しながら、対象者に合わせた適切な施術を行うことができる。 3. 施術前後での変化に着目し、効果的であったかを考察できる。						
成績評価方法	グループワーク参加度、提出課題の内容をルーブリックを用い評価する。						
回	内 容						担当者
1	徒手療法に必要な解剖学①						高梨翼
2	徒手療法に必要な解剖学②						
3	徒手療法に必要な生理学①						
4	徒手療法に必要な生理学②						
5	徒手療法に必要な生理学③						
6	徒手療法に必要な生理学④						
7	徒手療法に必要な運動学①						
8	徒手療法に必要な運動学②						
9	徒手療法に必要な運動学③						
10	徒手療法に必要な内科学基礎①						
11	徒手療法に必要な内科学基礎②						
12	徒手療法に必要な整形外科学基礎①						
13	徒手療法に必要な整形外科学基礎②						
14	徒手療法に必要な発達障害基礎①						
15	徒手療法に必要な発達障害基礎②						
16	徒手療法に必要な評価学①						
17	徒手療法に必要な評価学②						
18	徒手療法に必要な評価学③						
19	徒手療法（中枢神経疾患）						
20	徒手療法（末梢神経疾患）						
21	徒手療法（筋疾患）						
22	徒手療法（骨関節疾患）						
23	徒手療法（発達障害）						
履修者へのコメント ※10.5時間以上の自己学習を要する。 ・徒手療法は行う施術者により、結果に違いがみられやすいアプローチです。なんとなく「わかる」ではなく、しっかりと「できる」をみんなで目指していきましょう！・小グループやペアによる実技形式ですすめていくので、動きやすい服装で臨むこと。※授業の理解度・進行状況により、授業内容を変更する場合がありますため、注意すること。							
テキスト							
参考書 必要に応じて紹介していく。							

科 目 名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
保健統計分析学特論		演習	前期	OT3年	1単位	45時間	高梨翼
教 育 目 標	【一般目標】 保健統計に関する理解を深め、作業療法の社会的な役割を探求する。 【行動目標】 1. 保健統計に関連する情報（文献等）を検索・選定する。 2. 保健統計に関連する情報（文献等）をまとめ他学生に報告する。 3. 他学生の報告に対し、批判的な立場から意見を深め臨床での在り方を検討できる。						
成 績 評 価 方 法	レポートおよびグループワークへの参加度をルーブリックを用い総合的に評価する。						
回	内 容						担当者
1	保健統計とは何か 1						高梨翼
2	保健統計とは何か 2						
3	保健統計の手法について 1						
4	保健統計の手法について 2						
5	健康とは 1						
6	健康とは 2						
7	作用療法と健康とは 1						
8	作用療法と健康とは 2						
9	プレゼンテーション資料の作成 1						
10	発表 1						
11	資料の修正と再作成 1						
12	地域における健康支援について 1						
13	地域における健康支援について 2						
14	地域における健康支援について 3						
15	プレゼンテーション資料の作成 2						
16	発表 2						
17	資料の修正と再作成 2						
18	保健統計と作業療法 1						
19	保健統計と作業療法 2						
20	保健統計と作業療法 3						
21	プレゼンテーション資料の作成 3						
22	発表 3						
23	資料の修正と再作成 3						
履修者へのコメント ※10.5時間以上の自己学習を要する。 授業の理解度・進行状況により、授業内容を変更する場合があるため、注意すること。							
テキスト 特になし、必要に応じて資料を配布する。							
参考書 標準作業療法学 作業療法研究法（医学書院）							